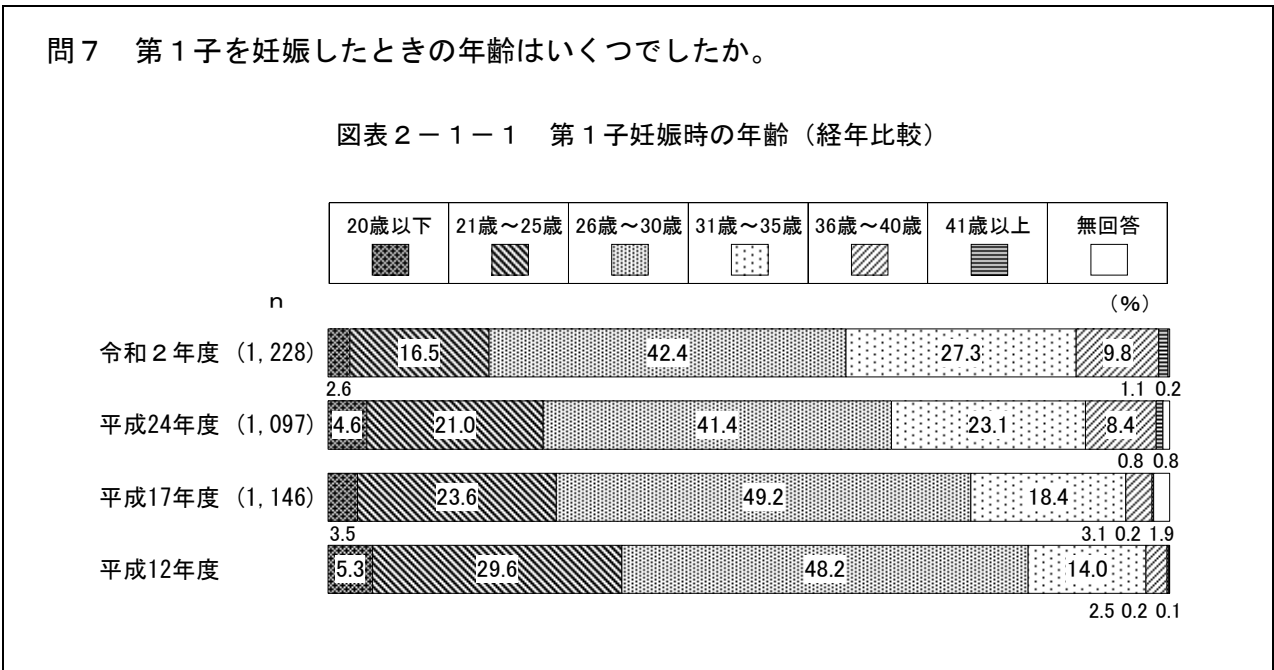


2. 第1子の妊娠時について

(1) 第1子妊娠時の年齢



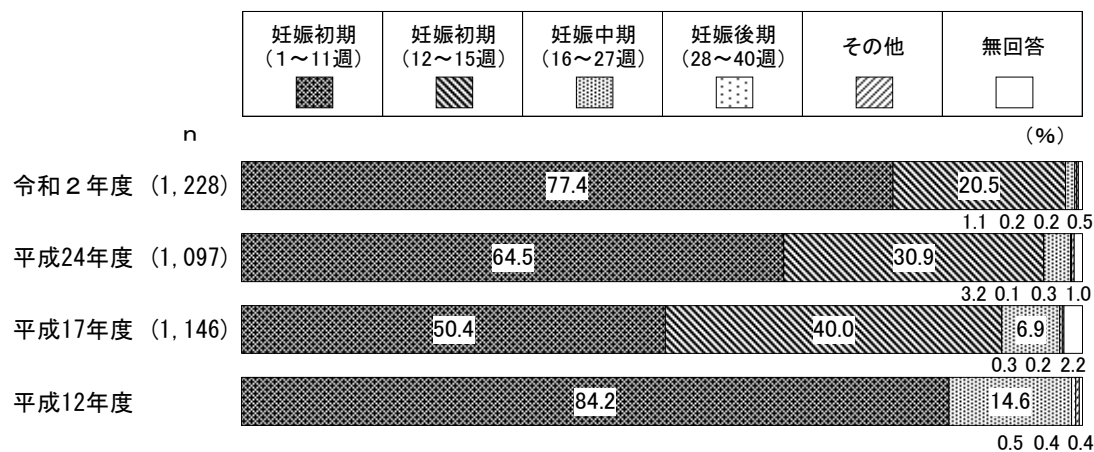
第1子を妊娠したときの年齢を聞いたところ、「26歳～30歳」が42.4%で最も高く、次いで「31歳～35歳」（27.3%）、「21歳～25歳」（16.5%）、「36歳～40歳」（9.8%）となっている。

過去の調査と比較すると、「31歳～35歳」は平成24年度より4.2ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。一方、「21歳～25歳」は平成24年度より4.5ポイント減少しており、平成12年度以降減少傾向にある。

(2) 母子健康手帳の交付時期

問8 母子健康手帳の交付を受けたのは、いつ頃でしたか。

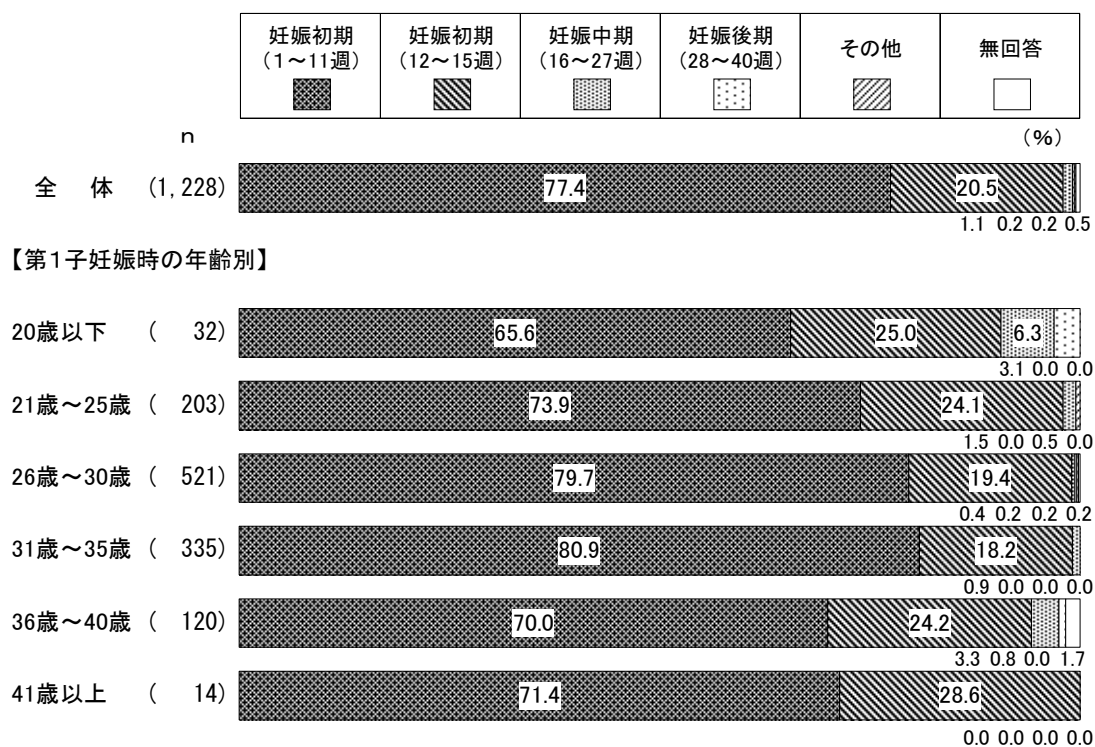
図表2-2-1 母子健康手帳の交付時期（経年比較）



母子健康手帳の交付時期を聞いたところ、「妊娠初期（1～11週）」が77.4%で最も高く、次いで「妊娠初期（12～15週）」（20.5%）、「妊娠中期（16～27週）」（1.1%）、「妊娠後期（28～40週）」（0.2%）となっている。

過去の調査と比較すると、「妊娠初期（1～11週）」は平成24年度より12.9ポイント増加しており、平成17年度以降増加傾向にある。

図表 2-2-2 母子健康手帳の交付時期（第1子妊娠時の年齢別）

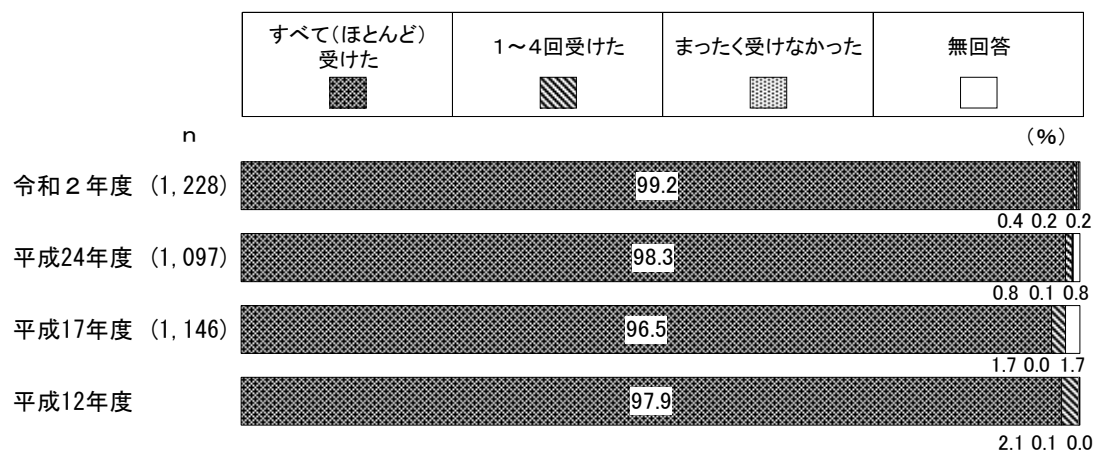


第1子妊娠時の年齢別で見ると、「妊娠初期（1～11週）」は“31歳～35歳”で80.9%、“26歳～30歳”で79.7%と高くなっている。

(3) 妊娠中の定期健診の受診

問9 妊娠中、定期的に健診を受けましたか。

図表2-3-1 妊娠中の定期健診の受診（経年比較）



妊娠中、定期的に健診を受けたか聞いたところ、「すべて(ほとんど)受けた」が99.2%となっている。一方、「1~4回受けた」は0.4%、「まったく受けなかった」は0.2%となっている。

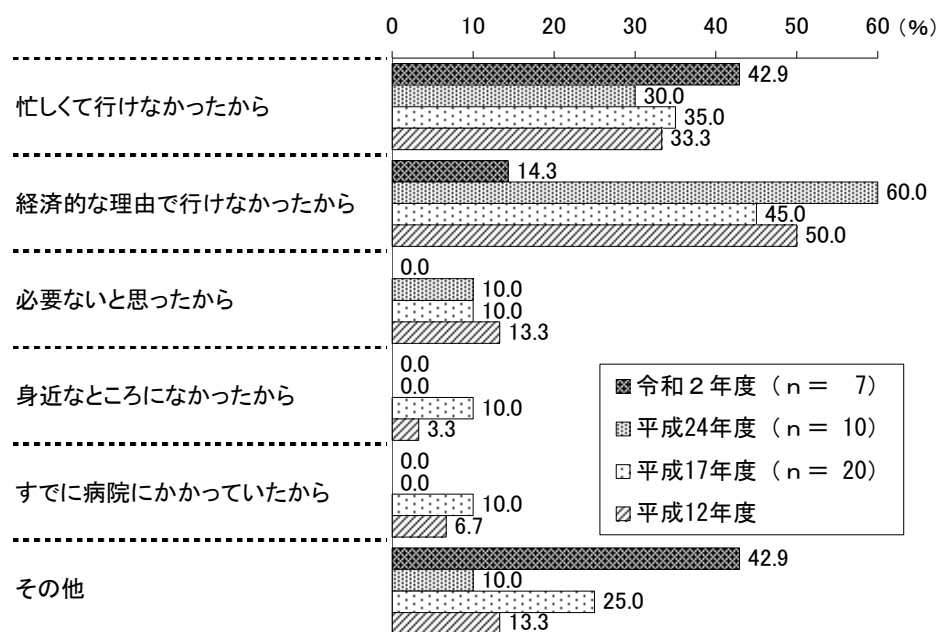
過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

(4) 健診を受けなかった理由

問9で「1～4回受けた」「まったく受けなかった」と答えた方へ

問9-1 健診を受けなかった理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表2-4-1 健診を受けなかった理由（経年比較）〔複数回答〕



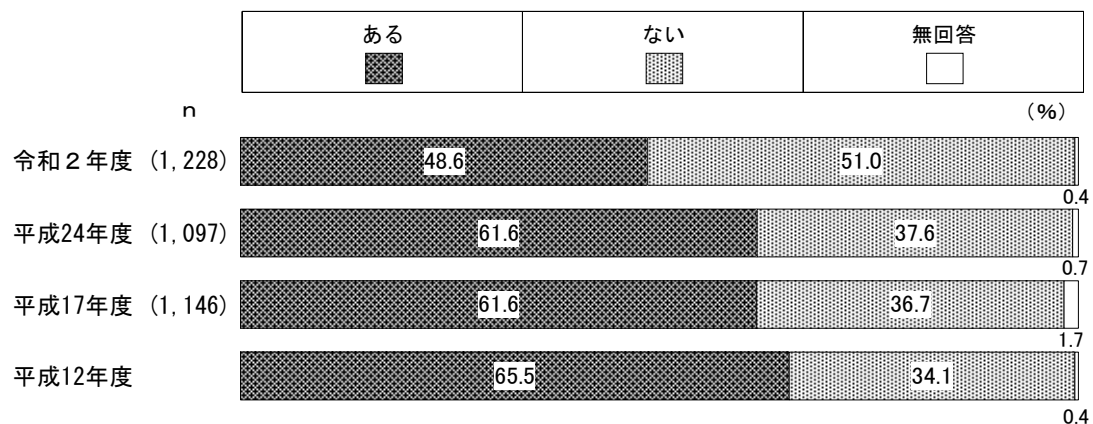
妊娠中の定期健診を「1～4回受けた」または「まったく受けなかった」と答えた人（7人）に、健診を受けなかった理由を聞いたところ、「忙しくて行けなかったから」が42.9%で最も高く、次いで「経済的な理由で行けなかったから」（14.3%）となっている。

過去の調査との比較は、基数が少ないため参考に図示する。

(5) 日常生活指導

問10 妊婦健診時、医師や助産師などから日常生活の指導を受けたことがありますか。

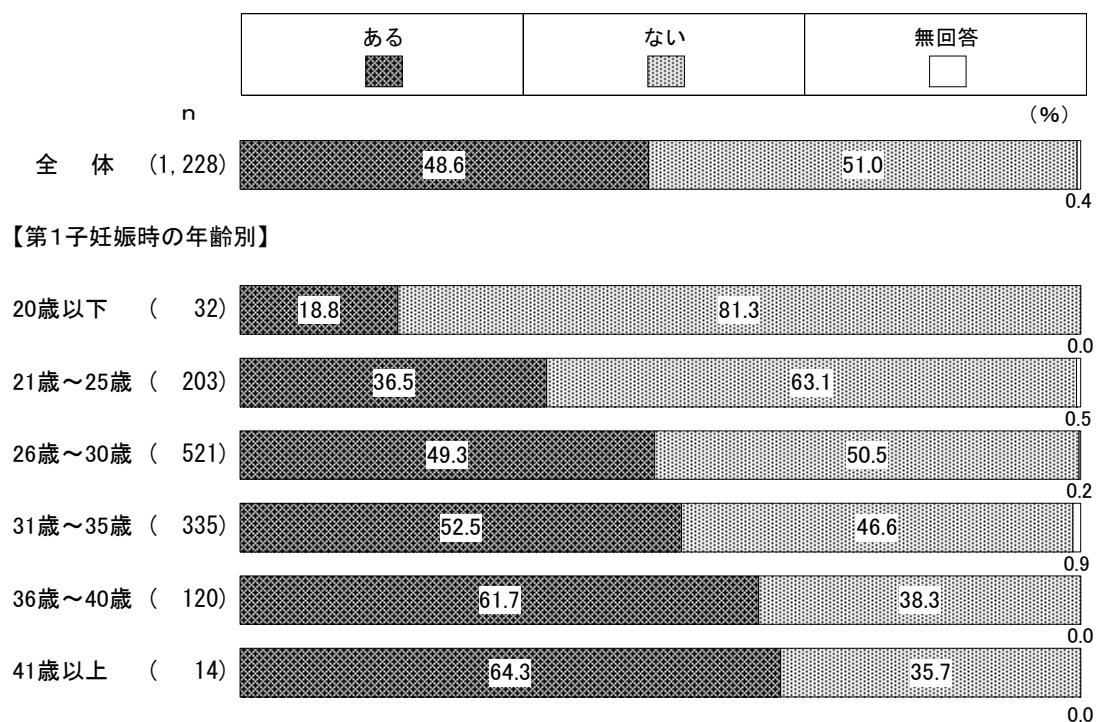
図表 2-5-1 日常生活指導（経年比較）



日常生活の指導を受けたことがあるか聞いたところ、「ある」が48.6%、「ない」は51.0%となっている。

過去の調査と比較すると、「ない」は平成24年度より13.4ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

図表 2-5-2 日常生活指導（第1子妊娠時の年齢別）

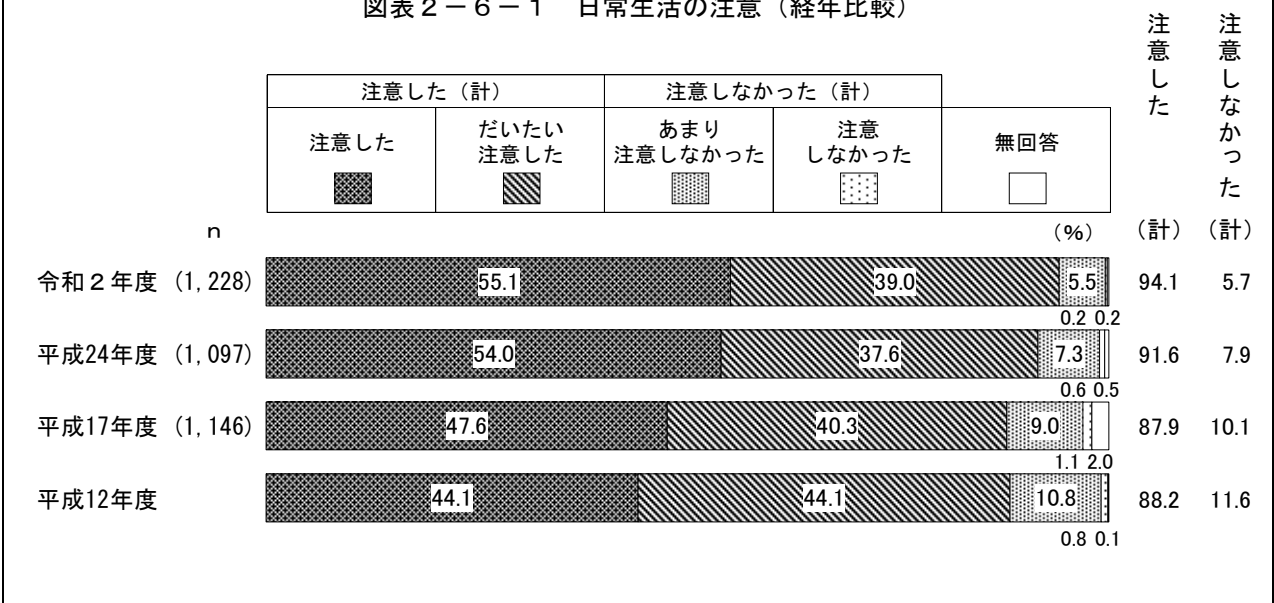


第1子妊娠時の年齢別で見ると、「ある」は第1子妊娠時の年齢が高くなるほど割合が高く、“41歳以上”で64.3%と高くなっている。一方、「ない」は第1子妊娠時の年齢が低くなるほど割合が高く、“20歳以下”で81.3%と高くなっている。

(6) 日常生活の注意

問11 妊娠中、日常生活に注意をしましたか。

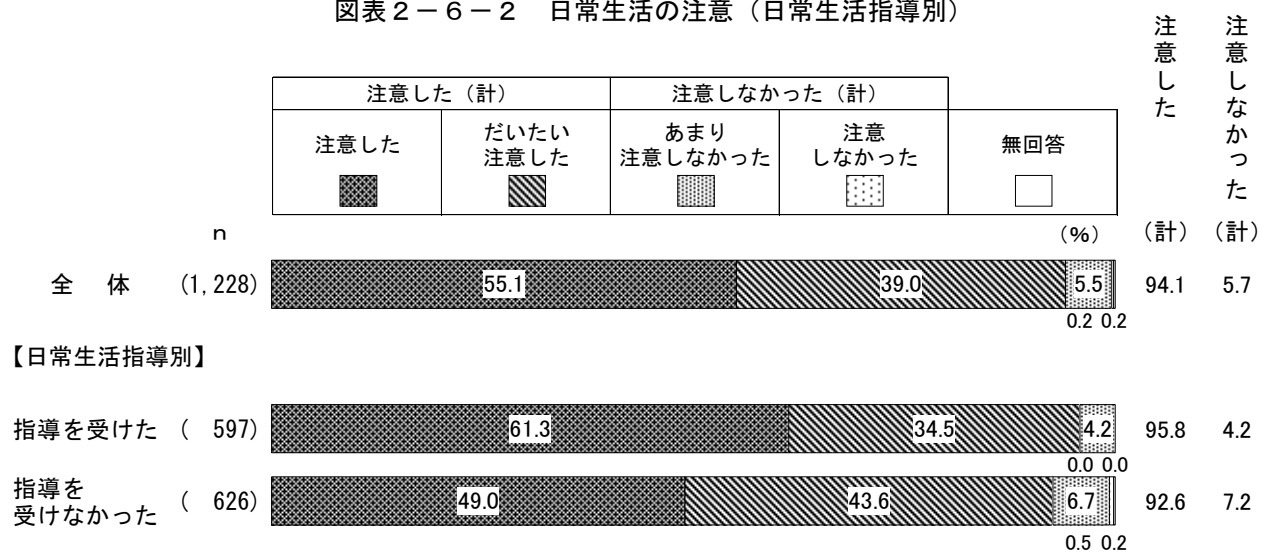
図表 2-6-1 日常生活の注意（経年比較）



妊娠中、日常生活に注意をしたか聞いたところ、「注意した」が55.1%で最も高く、これに「だいたい注意した」（39.0%）を合わせた『注意した（計）』は94.1%となっている。一方、「あまり注意しなかった」（5.5%）と「注意しなかった」（0.2%）を合わせた『注意しなかった（計）』は5.7%となっている。

過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

図表 2-6-2 日常生活の注意（日常生活指導別）

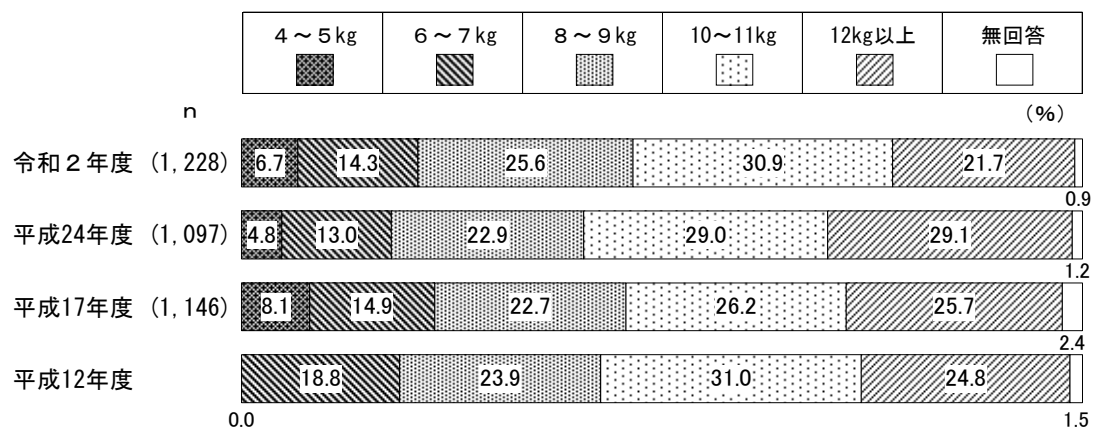


日常生活指導別でみると、『注意した（計）』は“指導を受けた人”（95.8%）が“指導を受けなかった人”（92.6%）より3.2ポイント高くなっている。

(7) 出産直前の体重の増加

問12 出産直前の体重は、妊娠前にくらべて、どのくらいまで増えましたか。

図表 2-7-1 出産直前の体重の増加（経年比較）



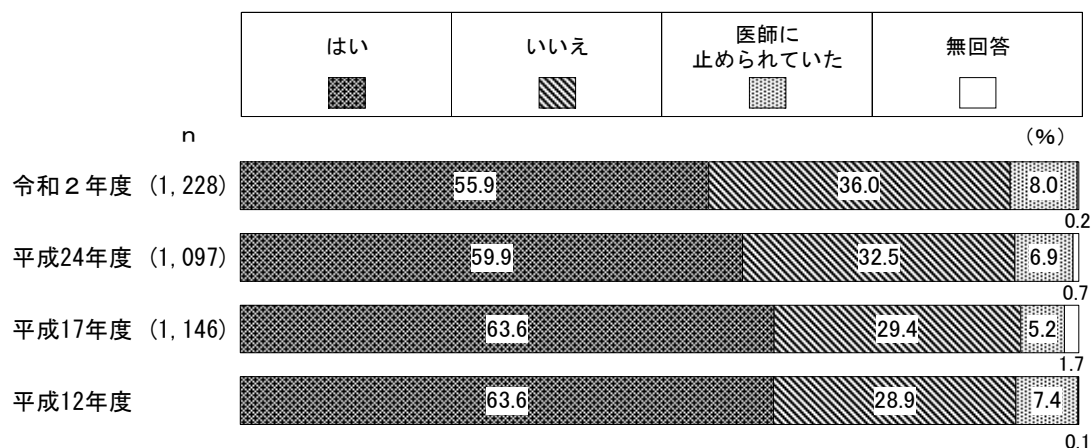
出産直前の体重の増加について聞いたところ、「10～11kg」が30.9%で最も高く、次いで「8～9kg」（25.6%）、「12kg以上」（21.7%）、「6～7kg」（14.3%）となっている。

過去の調査と比較すると、「12kg以上」は平成24年度より7.4ポイント減少している。

(8) 妊娠中期の運動

問13 妊娠中期（16～27週）頃、積極的に身体を動かしましたか。

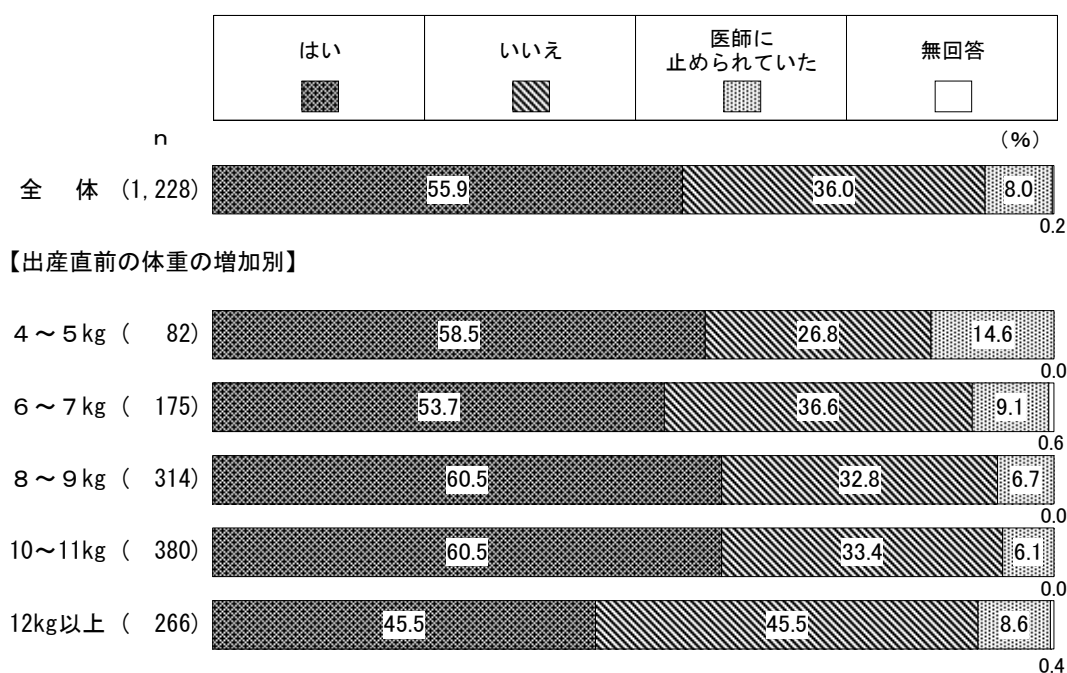
図表2-8-1 妊娠中期の運動（経年比較）



妊娠中期の運動について聞いたところ、「はい」が55.9%、「いいえ」は36.0%となっている。また、「医師に止められていた」は8.0%となっている。

過去の調査と比較すると、「いいえ」は平成24年度より3.5ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

図表2-8-2 妊娠中期の運動（出産直前の体重の増加別）

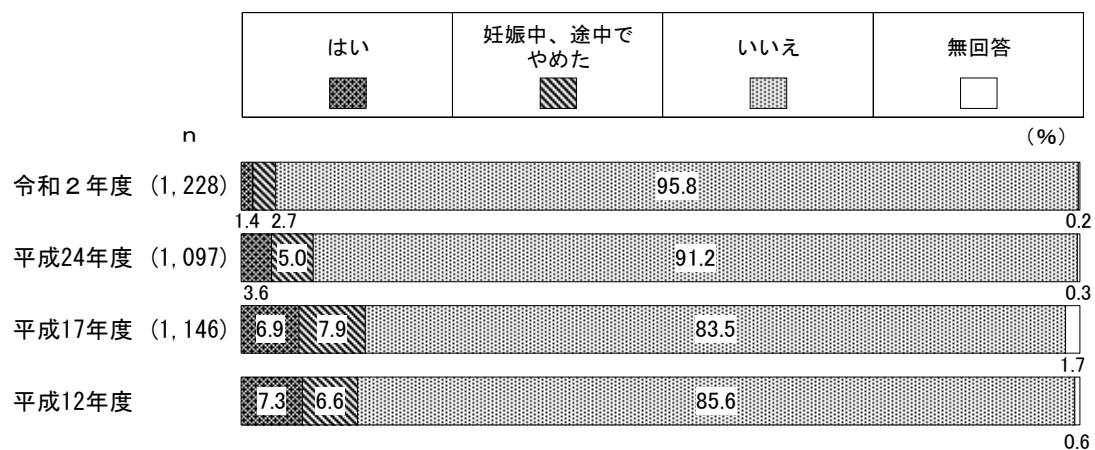


出産直前の体重の増加別で見ると、「はい」は“8～9kg”と“10～11kg”でともに60.5%と高くなっている。一方、「いいえ」は“12kg以上”で45.5%と高くなっている。

(9) 妊娠中の喫煙

問14 妊娠中、喫煙はしていましたか。

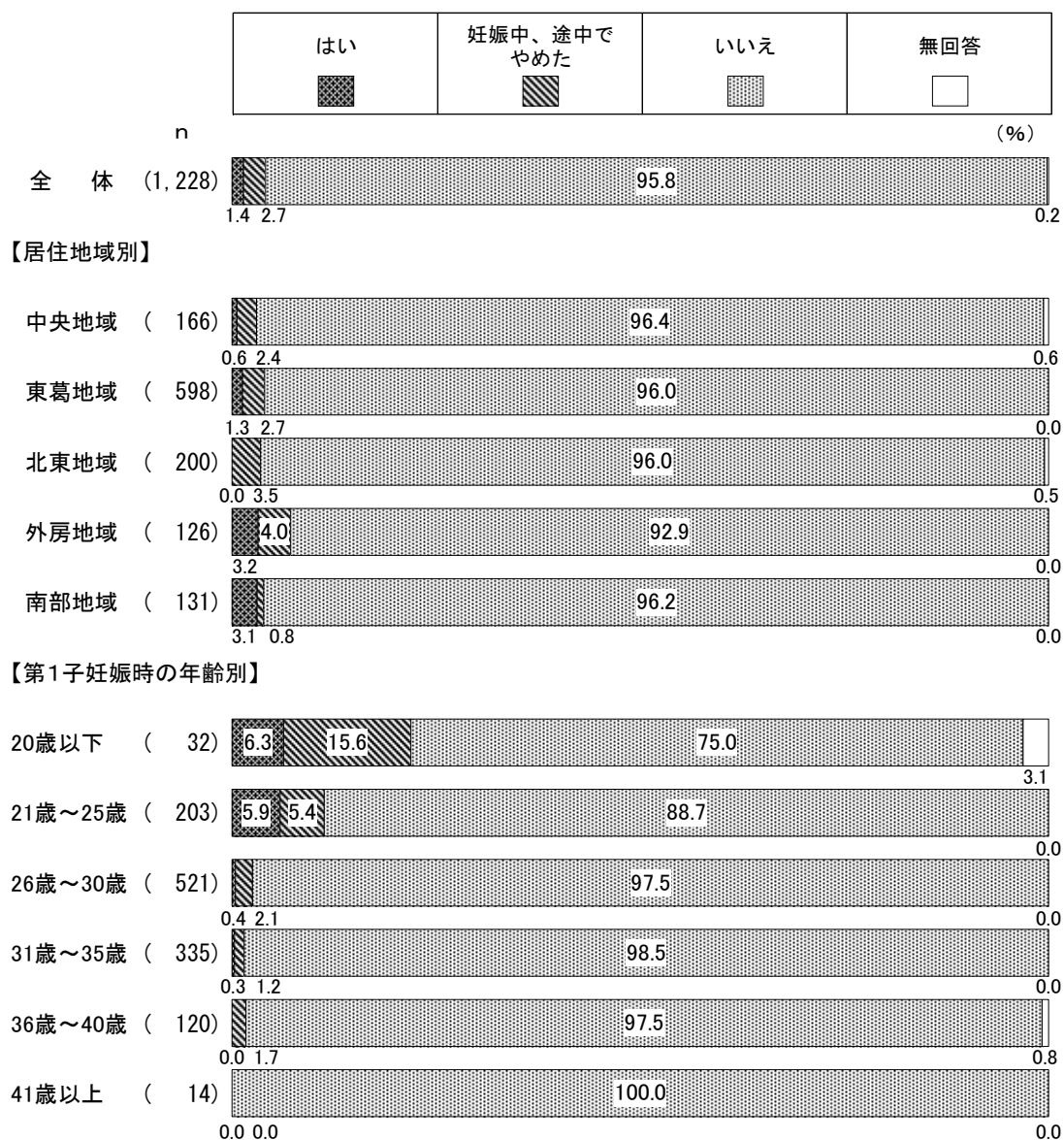
図表 2-9-1 妊娠中の喫煙（経年比較）



妊娠中、喫煙はしていたか聞いたところ、「はい」が1.4%、「妊娠中、途中でやめた」は2.7%となっている。一方、「いいえ」は95.8%となっている。

過去の調査と比較すると、「いいえ」は平成24年度より4.6ポイント増加しており、平成17年度以降増加傾向にある。

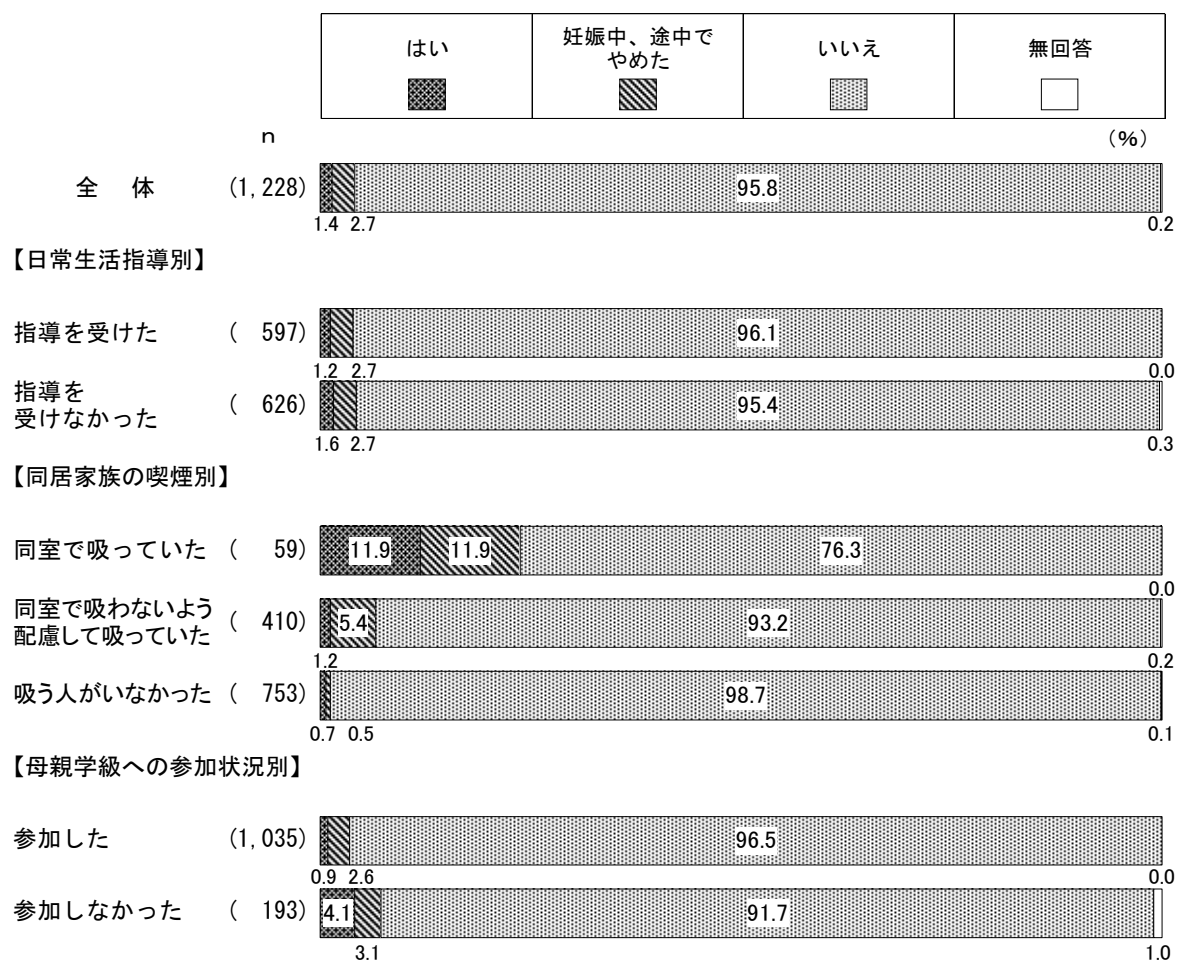
図表 2-9-2 妊娠中の喫煙（居住地域別、第1子妊娠時の年齢別）



居住地域別で見ると、“外房地域”で「はい」が3.2%、「妊娠中、途中でやめた」が4.0%、“南部地域”で「はい」が3.1%となっている。

第1子妊娠時の年齢別で見ると、“20歳以下”で「はい」が6.3%、「妊娠中、途中でやめた」が15.6%、“21歳～25歳”ではそれぞれ5.9%、5.4%となっている。

図表 2-9-3 妊娠中の喫煙（日常生活指導別、同居家族の喫煙別、母親学級への参加状況別）



日常生活指導別で見ると、大きな違いはみられない。

同居家族の喫煙別で見ると、“同居家族が同室で吸っていた”は「はい」と「妊娠中、途中でやめた」が共に11.9%となっている。

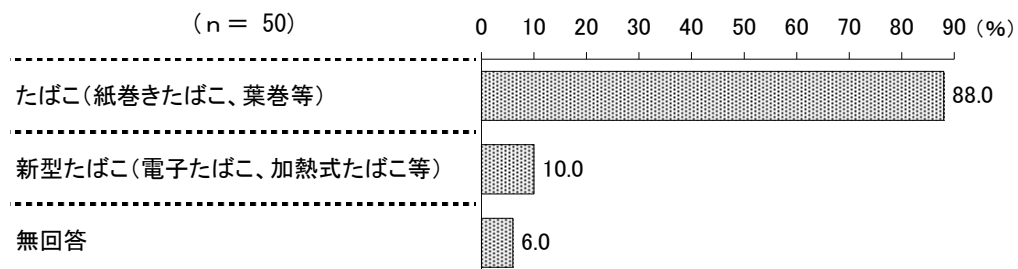
母親学級への参加状況別で見ると、「はい」は“母親学級に参加しなかった人”（4.1%）が“母親学級に参加した人”（0.9%）より3.2ポイント高くなっている。

(10) たばこの種類

問14で「はい」「妊娠中、途中でやめた」と答えた方へ

問14-1 吸っていたたばこの種類は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表2-10-1 たばこの種類 [複数回答]

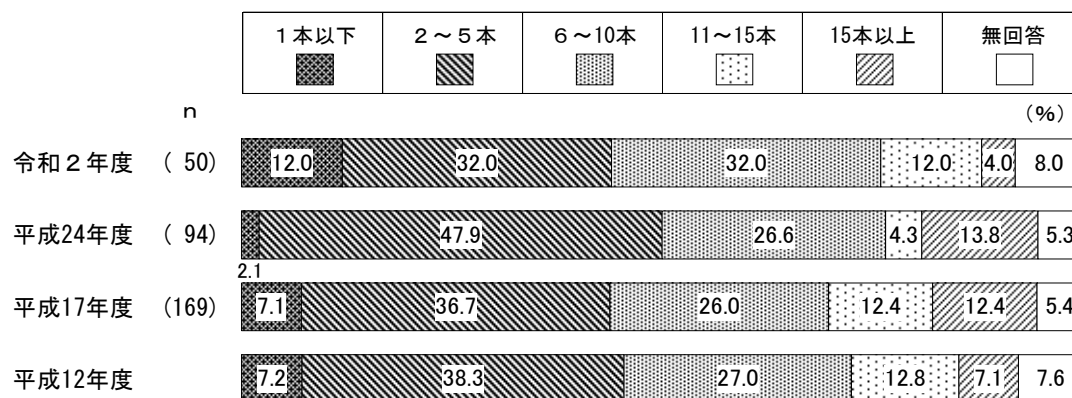


妊娠中の喫煙について、「喫煙していた」または「妊娠中、途中でやめた」と答えた人(50人)に、吸っていたたばこの種類を聞いたところ、「たばこ(紙巻きたばこ、葉巻等)」が88.0%、「新型たばこ(電子たばこ、加熱式たばこ等)」は10.0%となっている。

(11) 喫煙本数

問14で「はい」「妊娠中、途中でやめた」と答えた方へ
問14-2 一日何本くらい吸っていましたか。

図表 2-11-1 喫煙本数（経年比較）



妊娠中の喫煙について、「喫煙していた」または「妊娠中、途中でやめた」と答えた人（50人）に、一日何本くらい吸っていたか聞いたところ、「2～5本」と「6～10本」がともに32.0%で高くなっている。

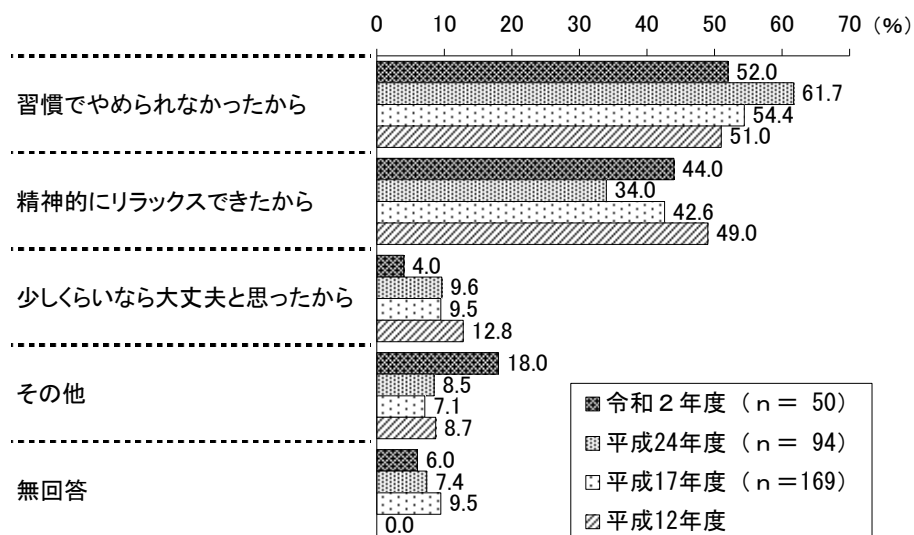
過去の調査と比較すると、「15本以上」は減少している。

(12) たばこを吸っていた理由

問14で「はい」「妊娠中、途中でやめた」と答えた方へ

問14-3 吸っていたのはなぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表2-12-1 たばこを吸っていた理由（経年比較）〔複数回答〕



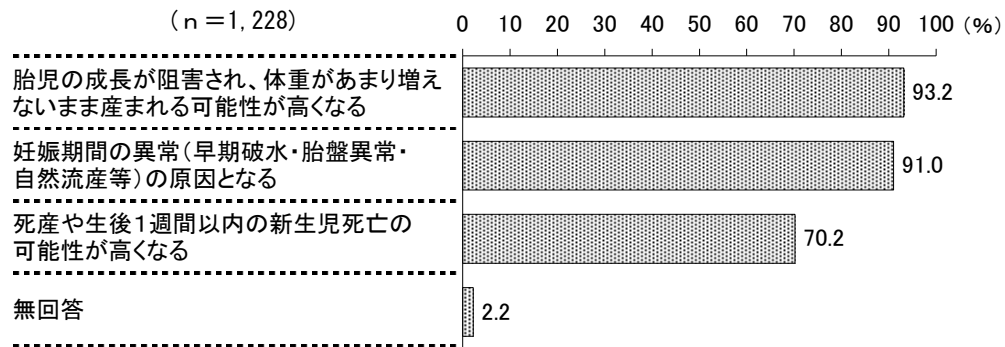
妊娠中の喫煙について、「喫煙していた」または「妊娠中、途中でやめた」と答えた人（50人）に、吸っていた理由を聞いたところ、「習慣でやめられなかったから」が52.0%で最も高く、次いで「精神的にリラックスできたから」（44.0%）、「少しくらいなら大丈夫と思ったから」（4.0%）となっている。

過去の調査と比較すると、「精神的にリラックスできたから」は平成24年度より10.0ポイント増加している。一方、「習慣でやめられなかったから」は平成24年度より9.7ポイント、「少しくらいなら大丈夫と思ったから」は平成24年度より5.6ポイント、それぞれ減少している。

(13) 妊娠中の喫煙に対する知識

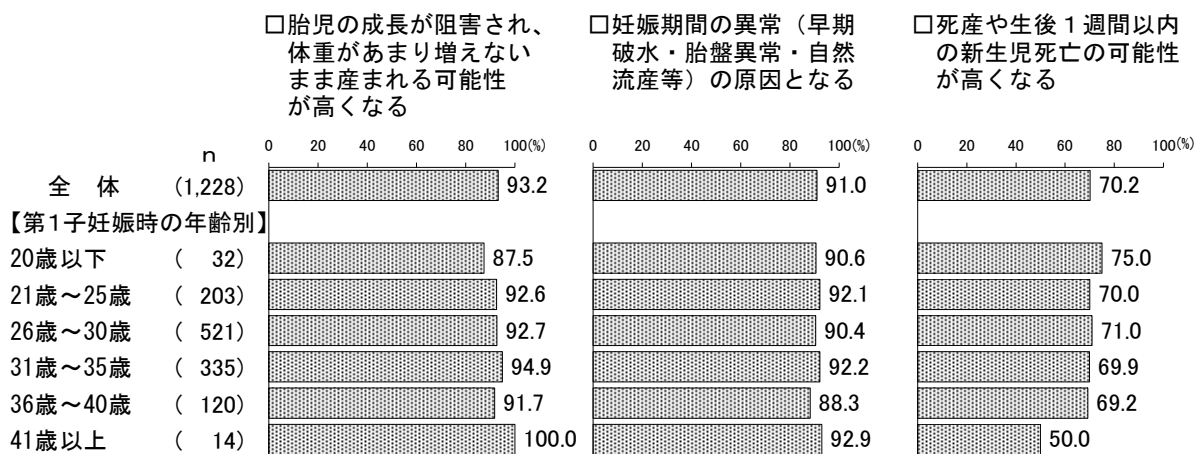
問15 妊娠中の喫煙がお母さんの身体や胎児に与える影響について、どんなことが起こると思いますか。当てはまると思うものすべてに○をつけてください。

図表 2-13-1 妊娠中の喫煙に対する知識 [複数回答]



妊娠中の喫煙がお母さんの身体や胎児に与える影響について聞いたところ、「胎児の成長が阻害され、体重があまり増えないまま産まれる可能性が高くなる」が93.2%で最も高く、次いで「妊娠期間の異常(早期破水・胎盤異常・自然流産等)の原因となる」(91.0%)、「死産や生後1週間以内の新生児死亡の可能性が高くなる」(70.2%)となっている。

図表 2-13-2 妊娠中の喫煙に対する知識 (第1子妊娠時の年齢別)

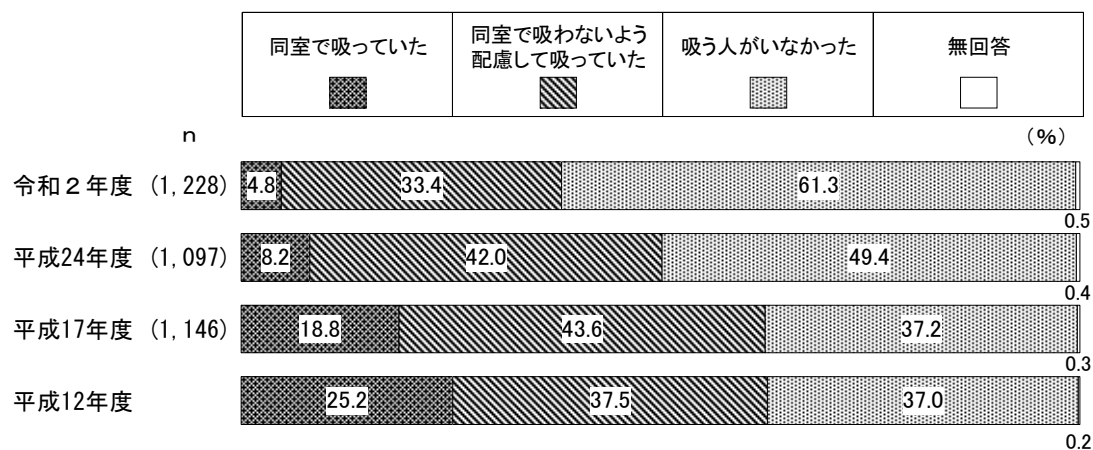


第1子妊娠時の年齢別でみると、「死産や生後1週間以内の新生児死亡の可能性が高くなる」は“20歳以下”で75.0%と高くなっている。

(14) 同居家族の喫煙

問16 妊娠中、同居の家族はたばこを吸っていましたか。

図表 2-14-1 同居家族の喫煙（経年比較）



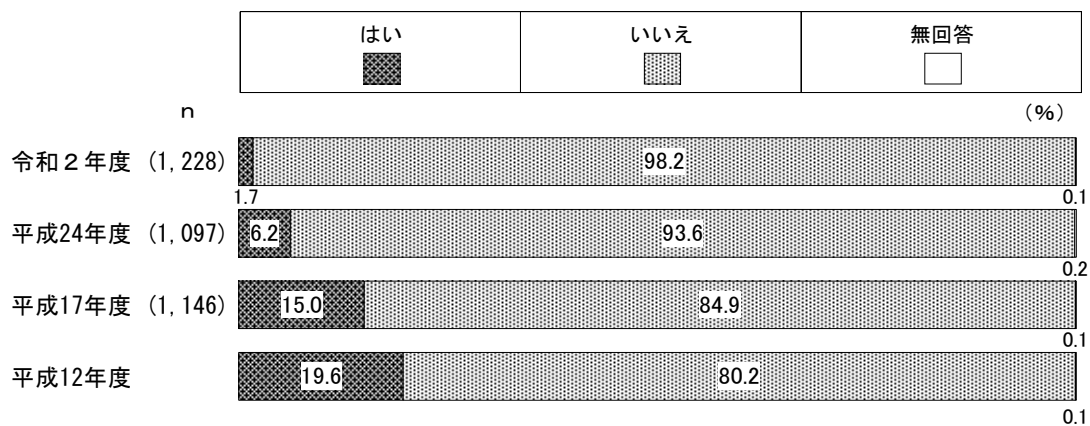
妊娠中、同居の家族はたばこを吸っていたか聞いたところ、「同室で吸っていた」が4.8%、「同室で吸わないよう配慮して吸っていた」は33.4%となっている。一方、「吸う人がいなかった」は61.3%となっている。

過去の調査と比較すると、「吸う人がいなかった」は平成24年度より11.9ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。一方、「同室で吸わないよう配慮して吸っていた」は平成24年度より8.6ポイント、「同室で吸っていた」は平成24年度より3.4ポイント、それぞれ減少している。

(15) 妊娠中の飲酒

問17 妊娠中、飲酒はしていましたか。

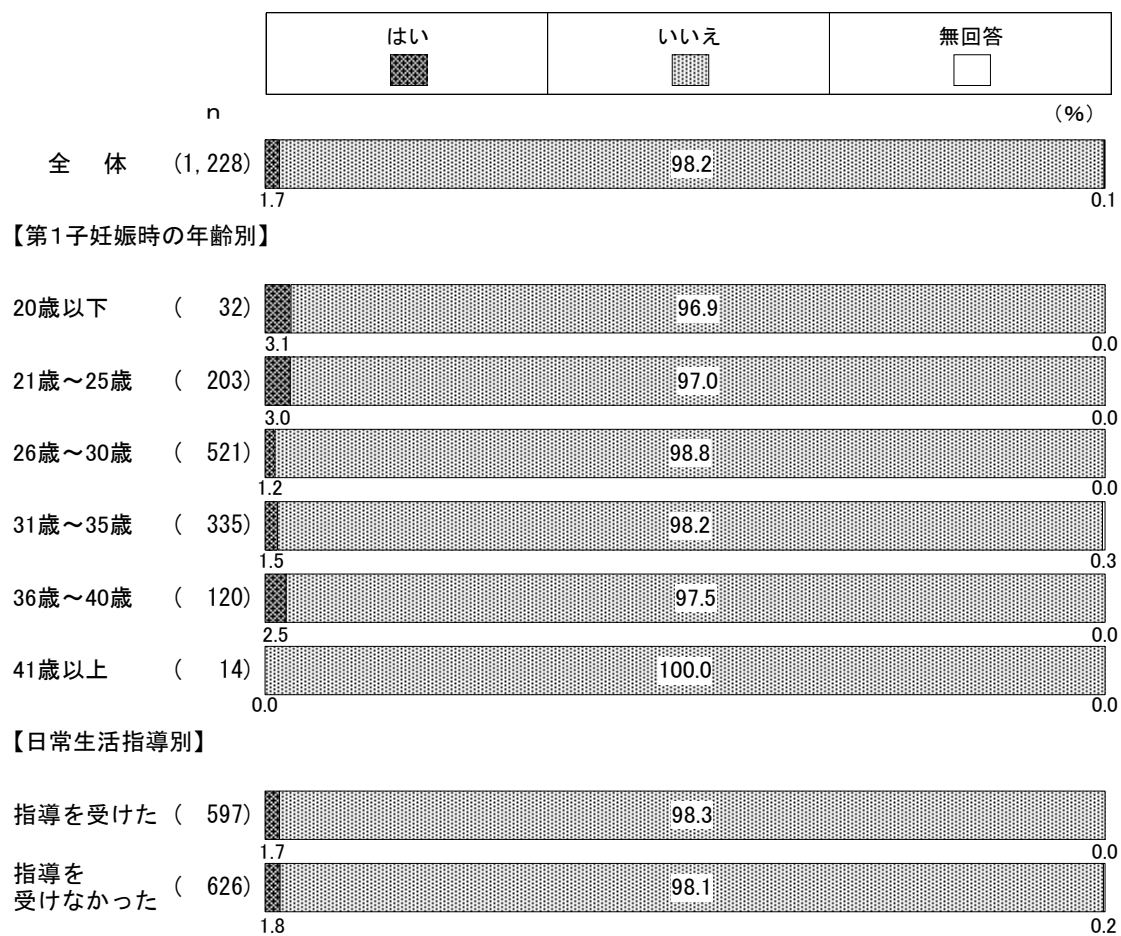
図表 2-15-1 妊娠中の飲酒（経年比較）



妊娠中、飲酒はしていたか聞いたところ、「はい」が1.7%、「いいえ」は98.2%となっている。

過去の調査と比較すると、「いいえ」は平成24年度より4.6ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

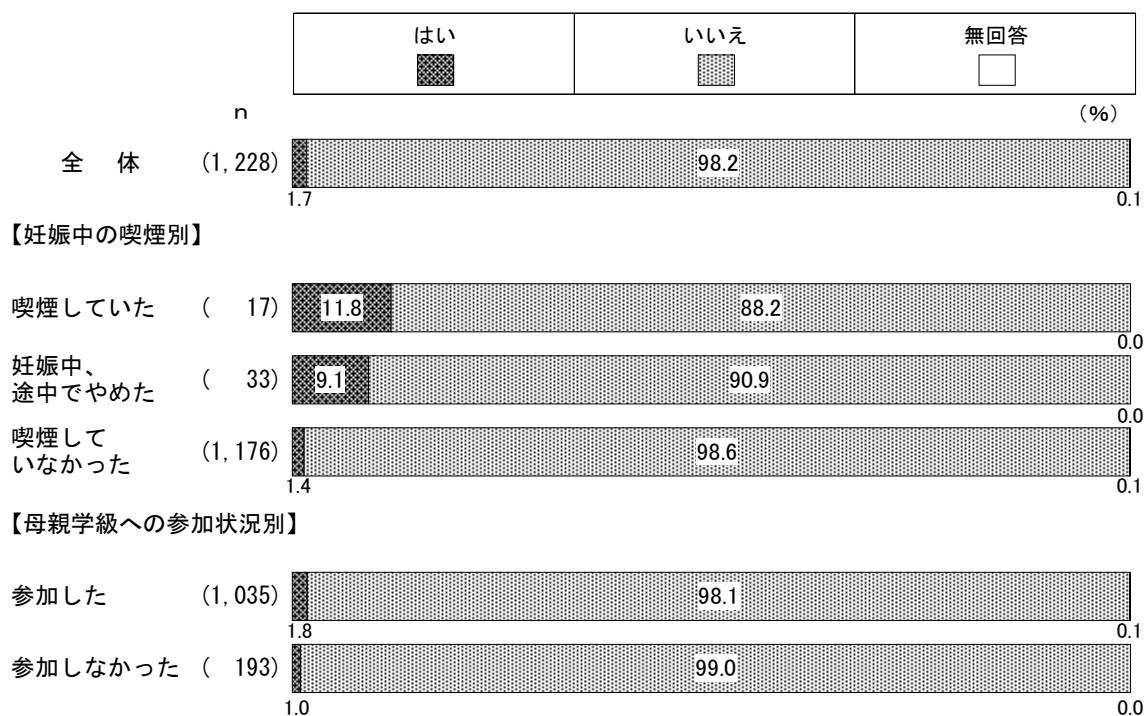
図表 2-15-2 妊娠中の飲酒（第1子妊娠時の年齢別、日常生活指導別）



第1子妊娠時の年齢別で見ると、「はい」が“20歳以下”で3.1%、“21歳～25歳”で3.0%となっている。

日常生活指導別で見ると、大きな違いはみられない。

図表 2-15-3 妊娠中の飲酒（妊娠中の喫煙別、母親学級への参加状況別）



妊娠中の喫煙別で見ると、「はい」は“喫煙していた”で11.8%、“妊娠中、途中でやめた”で9.1%となっている。

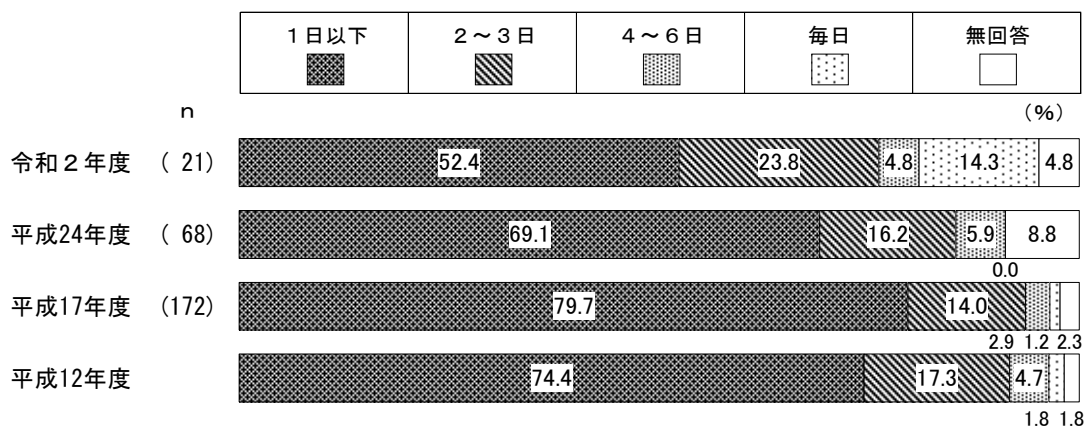
母親学級への参加状況別で見ると、大きな違いはみられない。

(16) 飲酒頻度

問17で「はい」と答えた方へ

問17-1 週に何日くらい飲酒していましたか。

図表2-16-1 飲酒頻度（経年比較）



妊娠中に「飲酒していた」と答えた人(21人)に、週に何日くらい飲酒していたか聞いたところ、「1日以下」が52.4%で最も高く、次いで「2～3日」(23.8%)、「毎日」(14.3%)、「4～6日」(4.8%)となっている。

過去の調査と比較すると、「毎日」は平成24年度より14.3ポイント増加している。一方、「1日以下」は平成24年度より16.7ポイント減少している。

(17) 飲酒量

問17で「はい」と答えた方へ

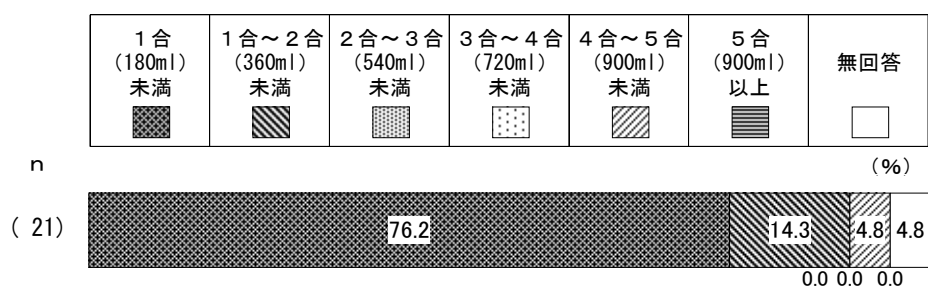
問17-2 妊娠中、1日あたりどれくらいの量を飲んでいましたか。(清酒量に換算)

※清酒1合(180ml)は、次の量にほぼ相当します。参考にしてください。

ビール・発泡酒 中瓶1本(500ml)、焼酎20%(135ml)、焼酎25%(110ml)、焼酎35%(80ml)

チューハイ7%(350ml)、ウィスキーダブル1杯(60ml)、ワイン2杯(240ml)

図表2-17-1 飲酒量

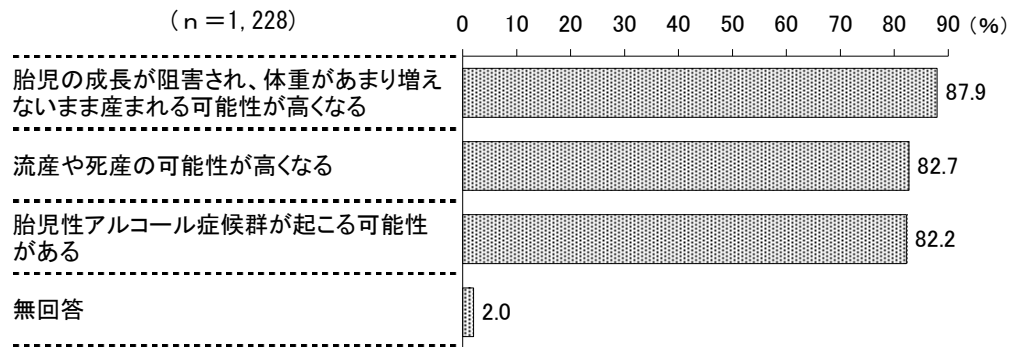


妊娠中に「飲酒していた」と答えた人(21人)に、1日あたりどれくらいの量を飲んでいたか聞いたところ、「1合(180ml)未満」が76.2%で最も高く、次いで「1合~2合(360ml)未満」(14.3%)、「4合~5合(900ml)未満」(4.8%)となっている。

(18) 妊娠中の飲酒に対する知識

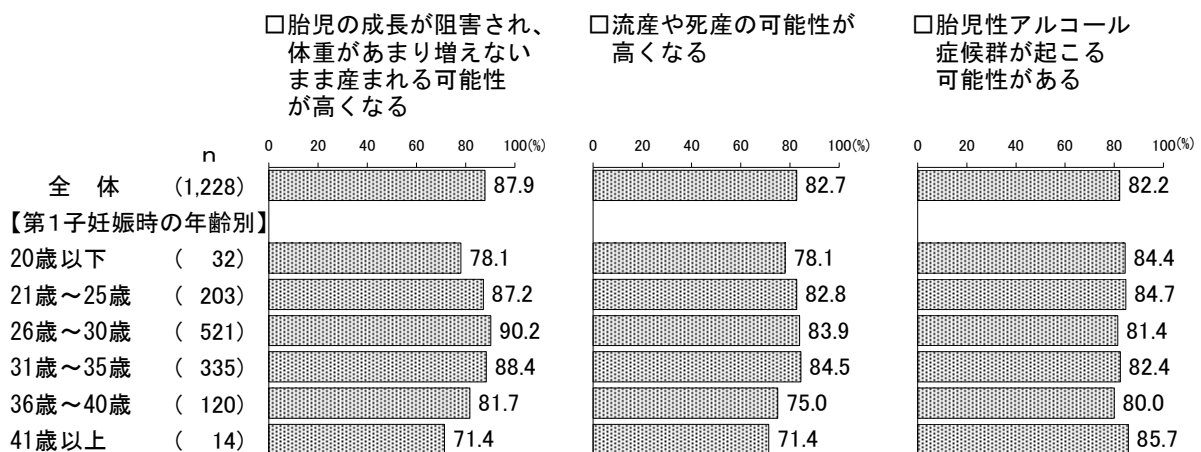
問18 妊娠中の大量飲酒がお母さんの身体や胎児の成長に与える影響について、あてはまると思うものすべてに○をつけてください。

図表 2-18-1 妊娠中の飲酒に対する知識 [複数回答]



妊娠中の大量飲酒がお母さんの身体や胎児の成長に与える影響について聞いたところ、「胎児の成長が阻害され、体重があまり増えないまま産まれる可能性が高くなる」が87.9%で最も高く、次いで「流産や死産の可能性が高くなる」(82.7%)、「胎児性アルコール症候群が起こる可能性がある」(82.2%)となっている。

図表 2-18-2 妊娠中の飲酒に対する知識 (第1子妊娠時の年齢別)

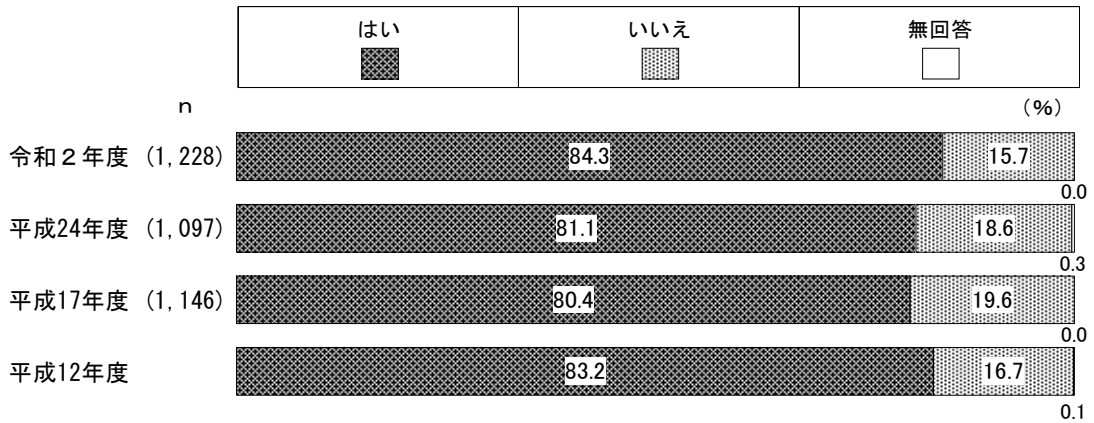


第1子妊娠時の年齢別でみると、「胎児の成長が阻害され、体重があまり増えないまま産まれる可能性が高くなる」は“26歳～30歳”で90.2%と高くなっている。「流産や死産の可能性が高くなる」は“21歳～25歳”で82.8%、“26歳～30歳”で83.9%、“31歳～35歳”で84.5%と高くなっている。

(19) 母親学級への参加状況

問19 母親学級に参加しましたか。

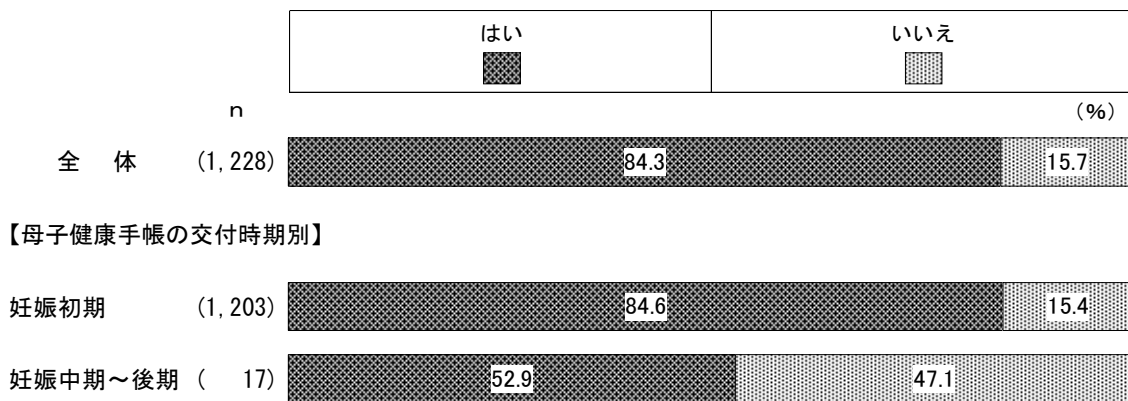
図表 2-19-1 母親学級への参加状況（経年比較）



母親学級に参加したか聞いたところ、「はい」が84.3%、「いいえ」は15.7%となっている。

過去の調査と比較すると、「はい」は平成24年度より3.2ポイント増加しており、平成17年度以降増加傾向にある。

図表 2-19-2 母親学級への参加状況（母子健康手帳の交付時期別）



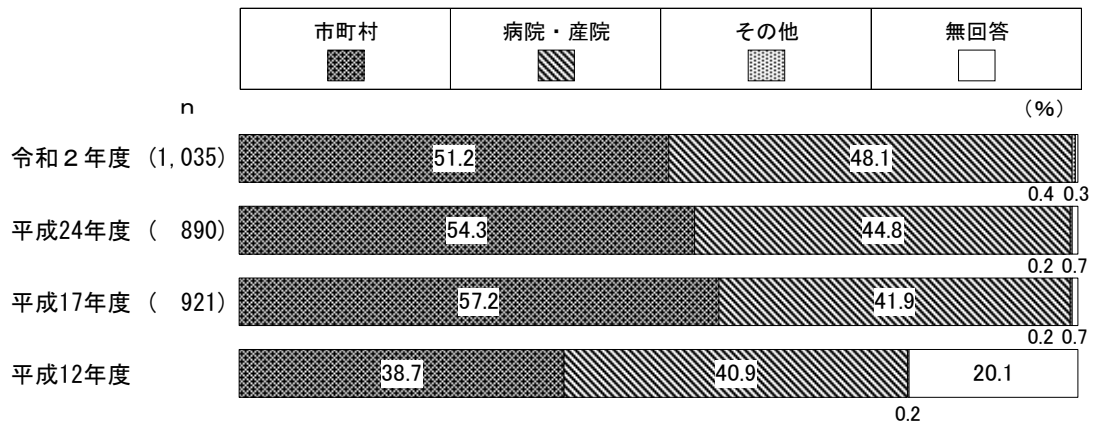
母子健康手帳の交付時期別でみると、「はい」は“妊娠初期”（84.6%）が“妊娠中期～後期”（52.9%）より31.7ポイント高くなっている。

(20) 母親学級へ参加した場所

問19で「はい」と答えた方へ

問19-1 どこで母親学級に参加しましたか。

図表2-20-1 母親学級へ参加した場所（経年比較）



※平成12年度は「重複回答(19.7%)」があり、その値は「無回答」に含めて表記している

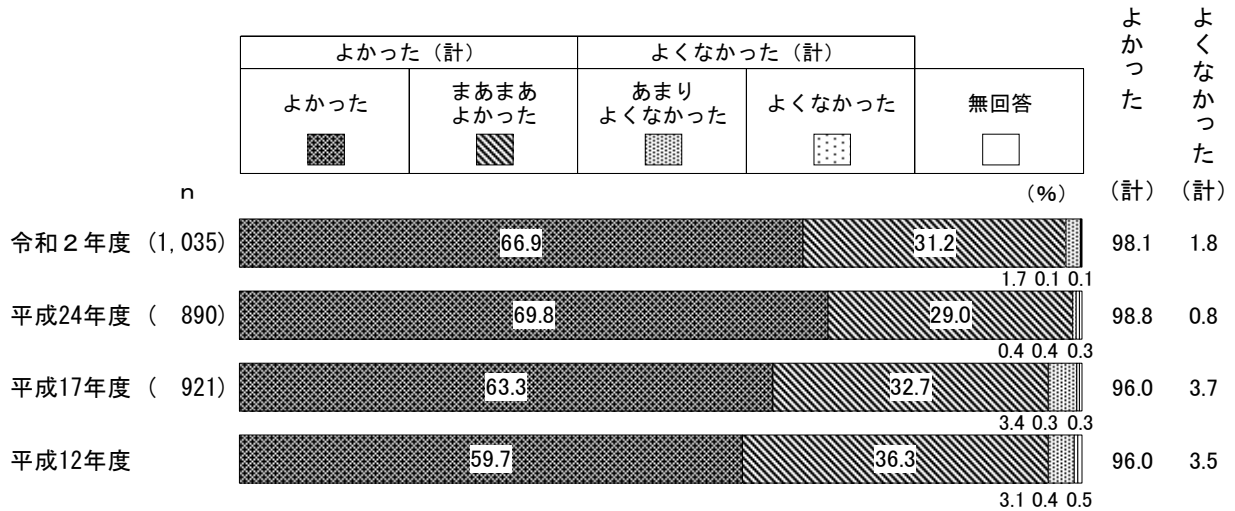
母親学級に「参加した」と答えた人(1,035人)に、どこで母親学級に参加したか聞いたところ、「市町村」が51.2%、「病院・産院」は48.1%となっている。

過去の調査と比較すると、「病院・産院」は平成24年度より3.3ポイント増加しており、平成17年度以降増加傾向にある。一方、「市町村」は平成24年度より3.1ポイント減少しており、平成17年度以降減少傾向にある。

(21) 母親学級へ参加した満足度

問19で「はい」と答えた方へ
問19-2 参加してよかったと思いますか。

図表 2-21-1 母親学級へ参加した満足度（経年比較）



母親学級に「参加した」と答えた人(1,035人)に、参加してよかったと思うか聞いたところ、「よかった」が66.9%で最も高く、これに「まあまあよかった」(31.2%)を合わせた『よかった(計)』は98.1%となっている。一方、「あまりよくなかった」(1.7%)と「よくなかった」(0.1%)を合わせた『よくなかった(計)』は1.8%となっている。

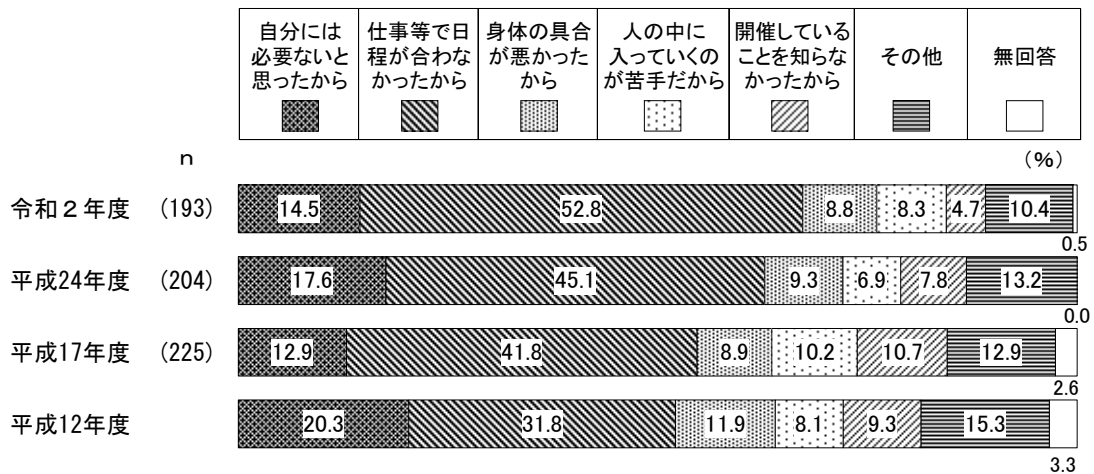
過去の調査と比較すると、平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

(22) 母親学級へ参加しなかった理由

問19で「いいえ」と答えた方へ

問19-3 参加しなかった理由で最もあてはまるものは何ですか。

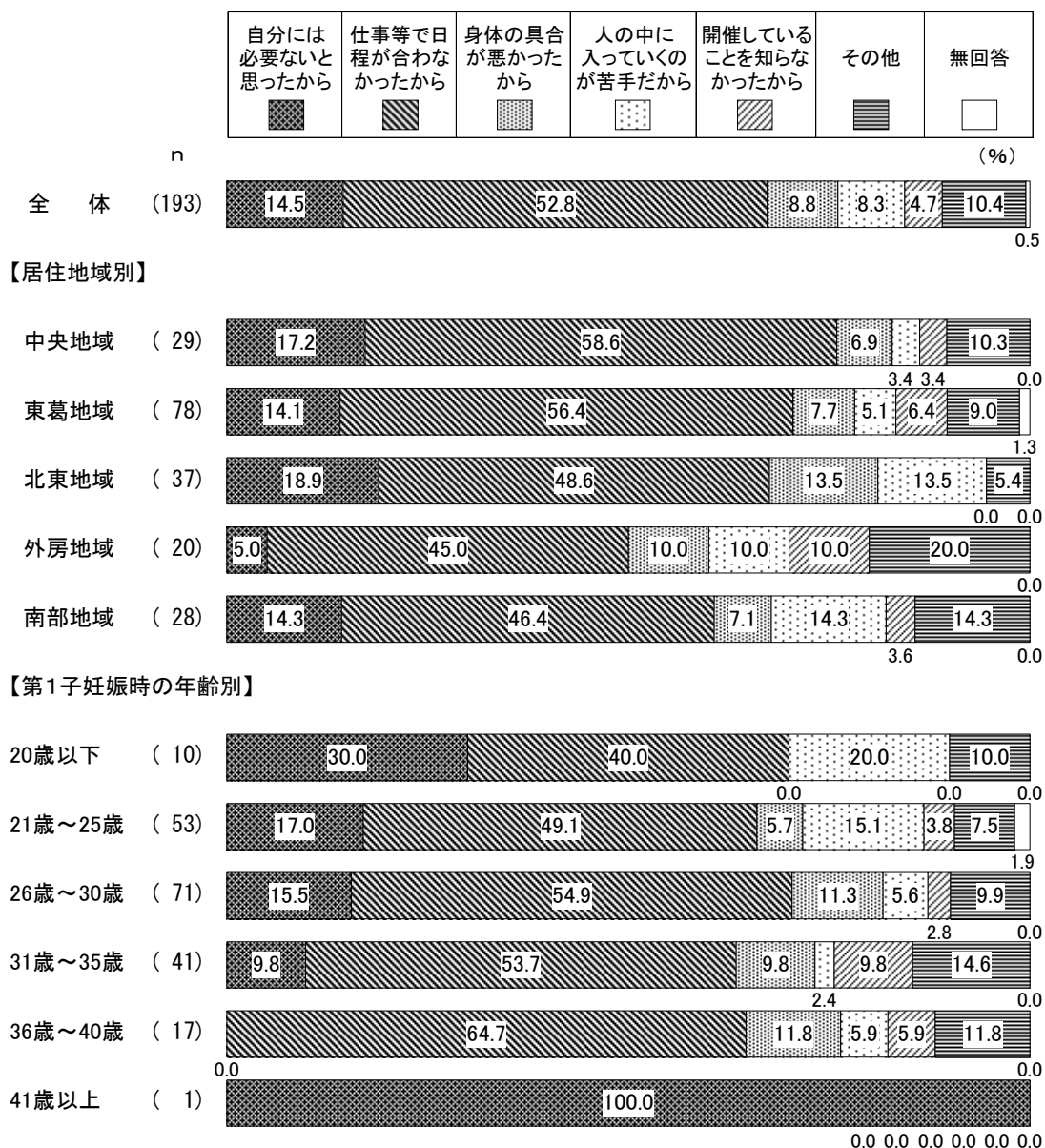
図表2-22-1 母親学級へ参加しなかった理由（経年比較）



母親学級に「参加しなかった」と答えた人（193人）に、参加しなかった理由を聞いたところ、「仕事等で日程が合わなかったから」が52.8%で最も高く、次いで「自分には必要ないと思ったから」（14.5%）、「身体の具合が悪かったから」（8.8%）、「人の中に入っていきるのが苦手だから」（8.3%）となっている。

過去の調査と比較すると、「仕事等で日程が合わなかったから」は平成24年度より7.7ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。一方、「自分には必要ないと思ったから」は平成24年度より3.1ポイント、「開催していることを知らなかったから」は平成24年度より3.1ポイント、それぞれ減少している。

図表 2-22-2 母親学級へ参加しなかった理由（居住地域別、第1子妊娠時の年齢別）



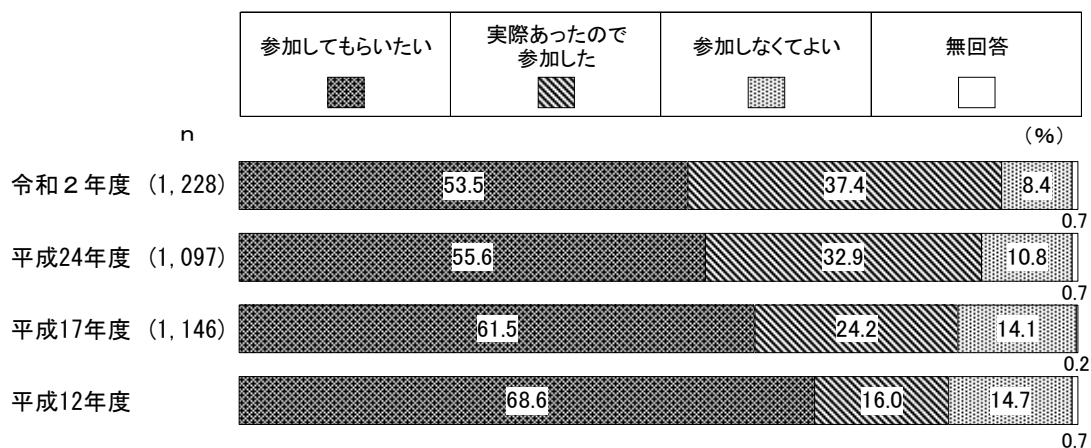
居住地域別で見ると、「仕事等で日程が合わなかったから」は“中央地域”で58.6%、“東葛地域”で56.4%と高くなっている。

第1子妊娠時の年齢別で見ると、「仕事等で日程が合わなかったから」は“36歳～40歳”で64.7%と高くなっている。

(23) 両親学級、父親学級への夫の参加希望

問20 「両親学級」「父親学級」があれば、夫にも参加してもらいたいですか。

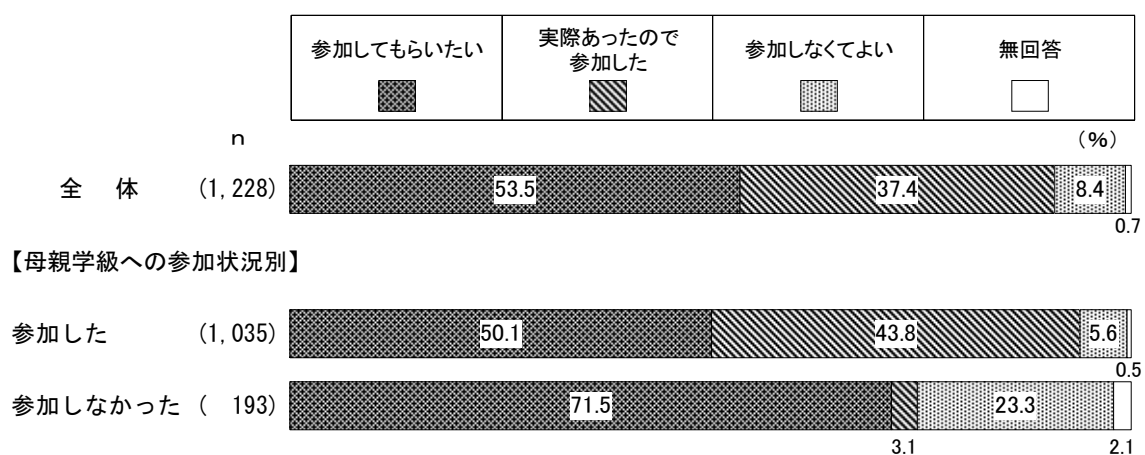
図表 2-23-1 両親学級、父親学級への夫の参加希望（経年比較）



両親学級、父親学級があれば、夫にも参加してもらいたいか聞いたところ、「参加してもらいたい」が53.5%、「実際あったので参加した」は37.4%となっている。一方、「参加しなくてよい」は8.4%となっている。

過去の調査と比較すると、「実際あったので参加した」は平成24年度より4.5ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。一方、「参加してもらいたい」と「参加しなくてよい」はともに平成12年度以降減少傾向にある。

図表 2-23-2 両親学級、父親学級への夫の参加希望（母親学級への参加状況別）

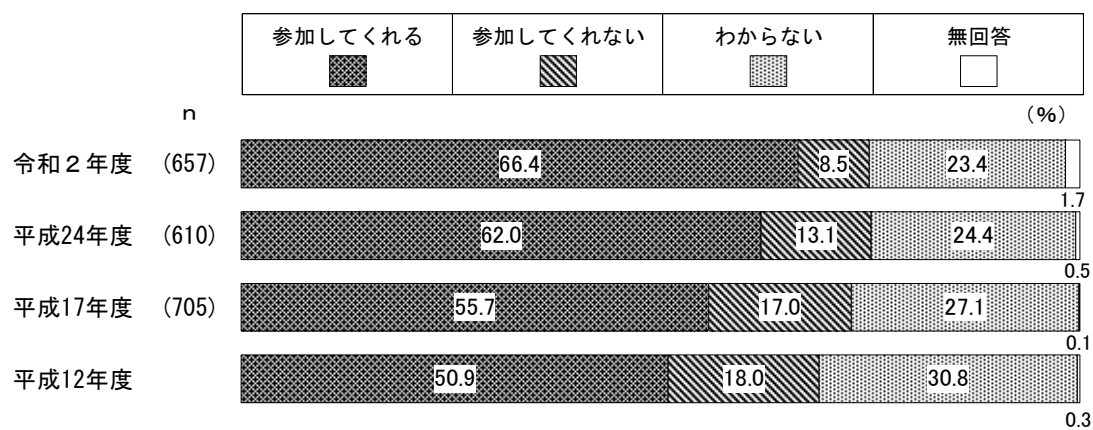


母親学級への参加状況別でみると、「実際あったので参加した」は“母親学級に参加した人”（43.8%）が“母親学級に参加しなかった人”（3.1%）より40.7ポイント高くなっている。一方、「参加してもらいたい」は“母親学級に参加しなかった人”（71.5%）が“母親学級に参加した人”（50.1%）より21.4ポイント高くなっている。

(24) 両親学級、父親学級への夫の参加可能性

問20で「参加してもらいたい」と答えた方へ
問20-1 夫は参加してくれると思いますか。

図表2-24-1 両親学級、父親学級への夫の参加可能性（経年比較）



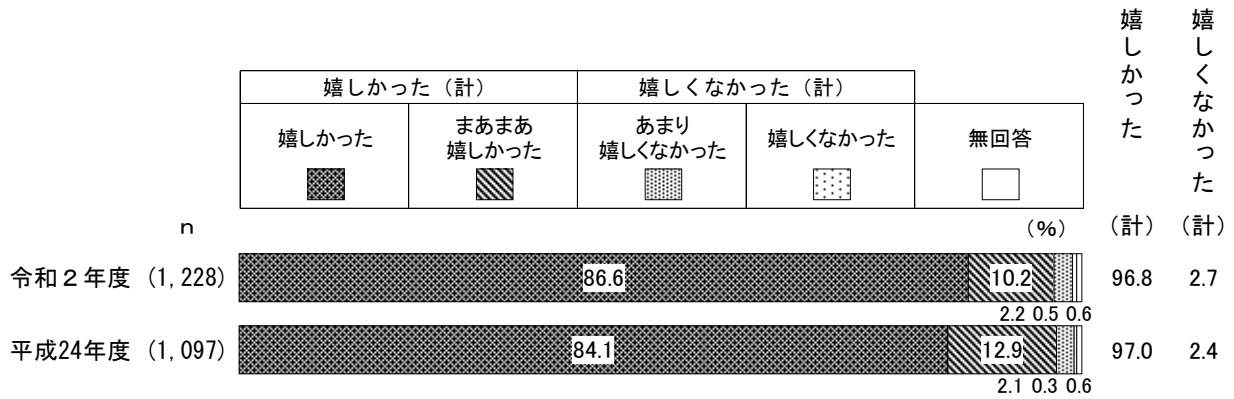
両親学級、父親学級に、夫にも「参加してもらいたい」と答えた人（657人）に、夫は参加してくれると思うか聞いたところ、「参加してくれる」が66.4%、「参加してくれない」は8.5%となっている。また、「わからない」は23.4%となっている。

過去の調査と比較すると、「参加してくれる」は平成24年度より4.4ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。一方、「参加してくれない」は平成24年度より4.6ポイント減少しており、平成12年度以降減少傾向にある。

(25) 妊娠とわかったときの本人の気持ち

問21 妊娠とわかったときの気持ちで、最もあてはまるのは次のうちどれですか。

図表 2-25-1 妊娠とわかったときの本人の気持ち（経年比較）

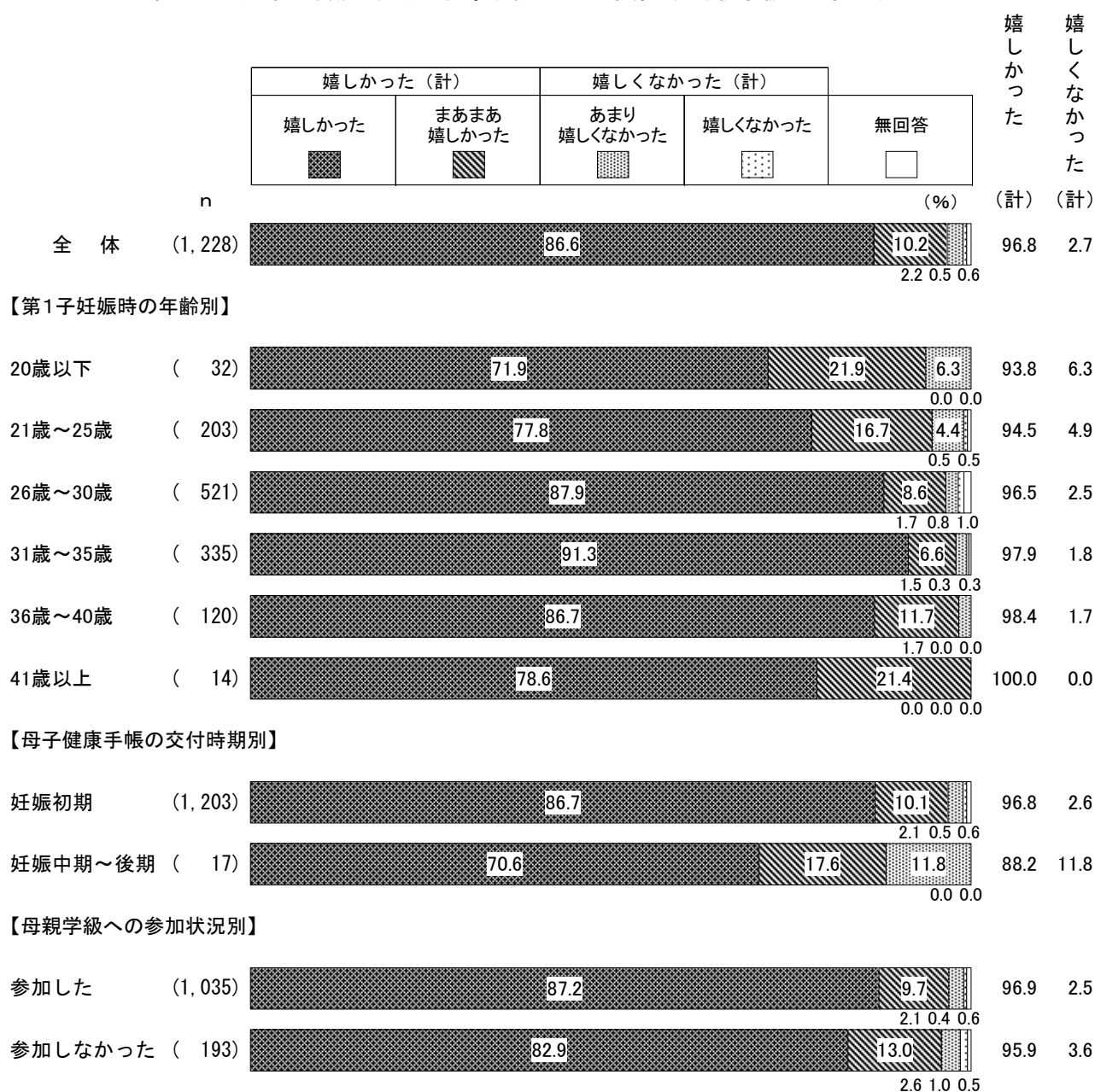


妊娠とわかったときの気持ちを聞いたところ、「嬉しかった」が86.6%で最も高く、これに「まあまあ嬉しかった」（10.2%）を合わせた『嬉しかった（計）』は96.8%となっている。一方、「あまり嬉しくなかった」（2.2%）と「嬉しくなかった」（0.5%）を合わせた『嬉しくなかった（計）』は2.7%となっている。

過去の調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。

図表 2-25-2 妊娠とわかったときの本人の気持ち

(第1子妊娠時の年齢別、母子健康手帳の交付時期別、母親学級への参加状況別)



第1子妊娠時の年齢別で見ると、「嬉しかった」は“31歳～35歳”で91.3%と高くなっている。

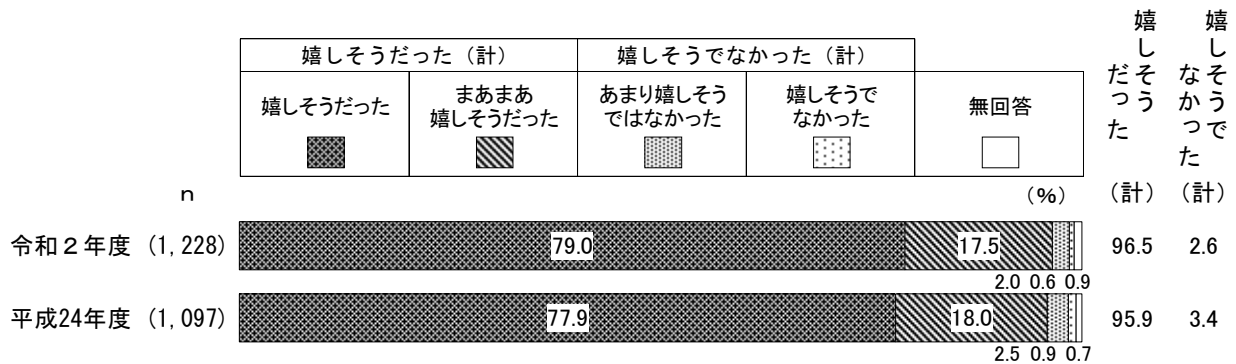
母子健康手帳の交付時期別で見ると、『嬉しかった (計)』は“妊娠初期” (96.8%) が“妊娠中期～後期” (88.2%) より8.6ポイント高くなっている。

母親学級への参加状況別で見ると、「嬉しかった」は“母親学級に参加した人” (87.2%) が“母親学級に参加しなかった人” (82.9%) より4.3ポイント高くなっている。

(26) 妊娠とわかったときの夫の様子

問22 妊娠とわかったときの夫の様子で、最もあてはまるのは次のうちどれですか。

図表2-26-1 妊娠とわかったときの夫の様子（経年比較）



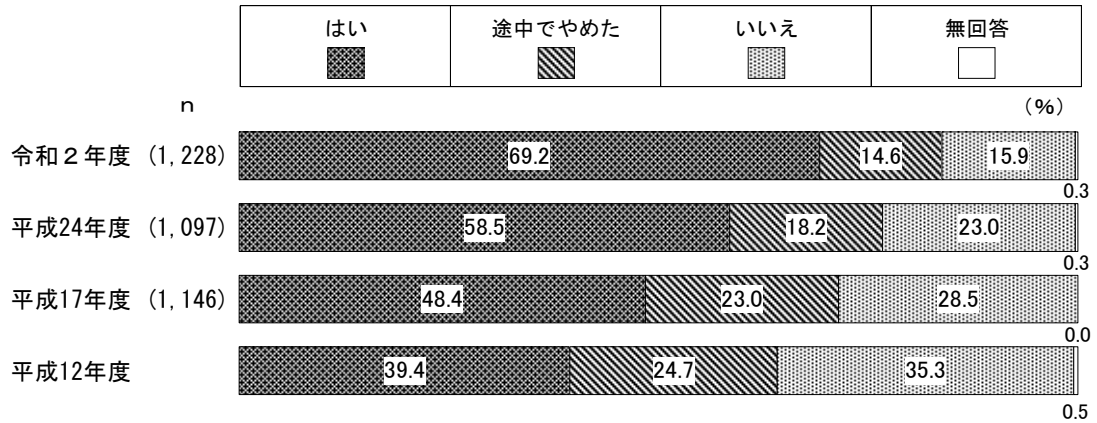
妊娠とわかったときの夫の様子を聞いたところ、「嬉しそうだった」が79.0%で最も高く、これに「まあまあ嬉しそうだった」（17.5%）を合わせた『嬉しそうだった（計）』は96.5%となっている。一方、「あまり嬉しそうではなかった」（2.0%）と「嬉しそうでなかった」（0.6%）を合わせた『嬉しそうでなかった（計）』は2.6%となっている。

過去の調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。

(27) 妊娠中の就労状況

問23 妊娠中、仕事をしていたか。

図表2-27-1 妊娠中の就労状況（経年比較）



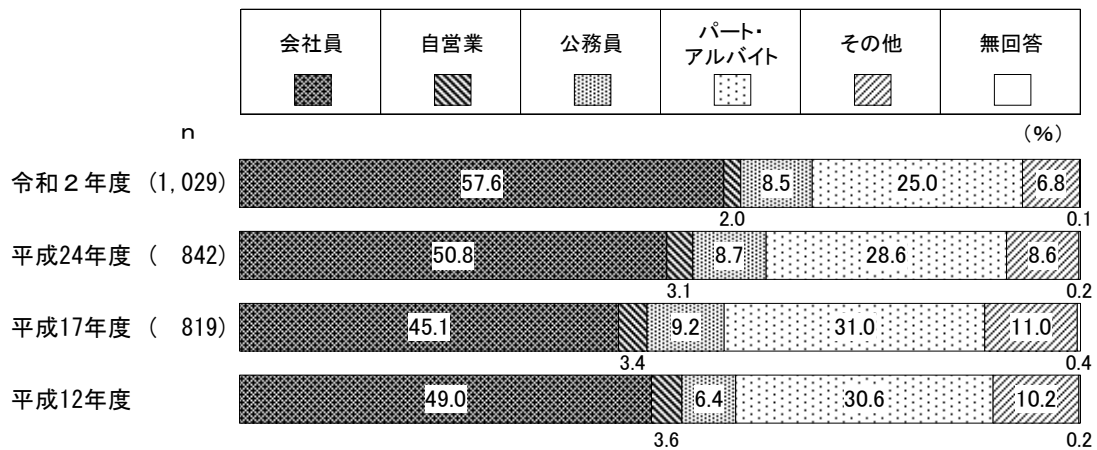
妊娠中、仕事をしていたか聞いたところ、「はい」が69.2%、「途中でやめた」は14.6%となっている。一方、「いいえ」は15.9%となっている。

過去の調査と比較すると、「はい」は平成24年度より10.7ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

(28) 妊娠中の職業

問23で「はい」「途中でやめた」と答えた方へ
 問23-1 職業は何ですか。(あるいは何でしたか)

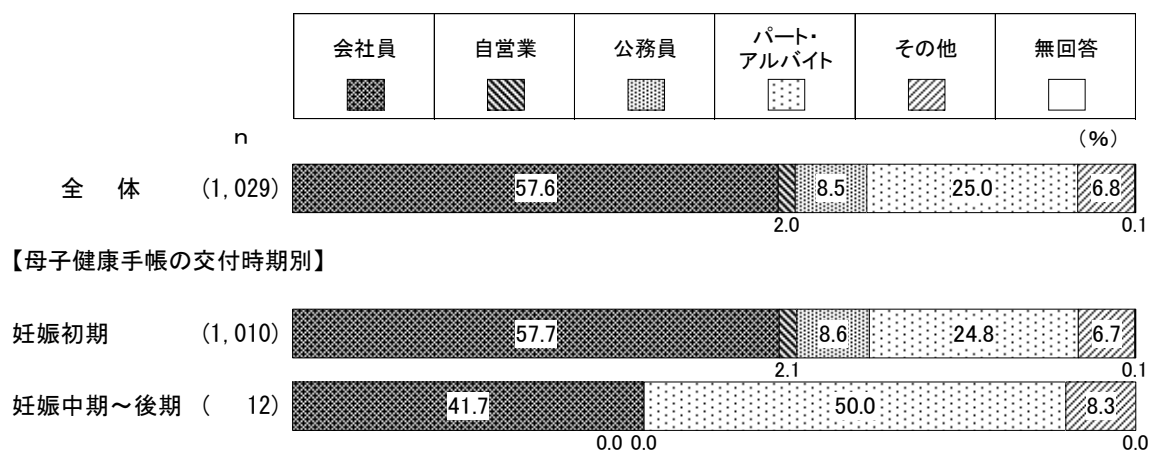
図表 2-28-1 妊娠中の職業 (経年比較)



妊娠中に仕事を「していた」または「途中でやめた」と答えた人 (1,029人) に、職業を聞いたところ、「会社員」が57.6%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」(25.0%)、「公務員」(8.5%)、「自営業」(2.0%)となっている。

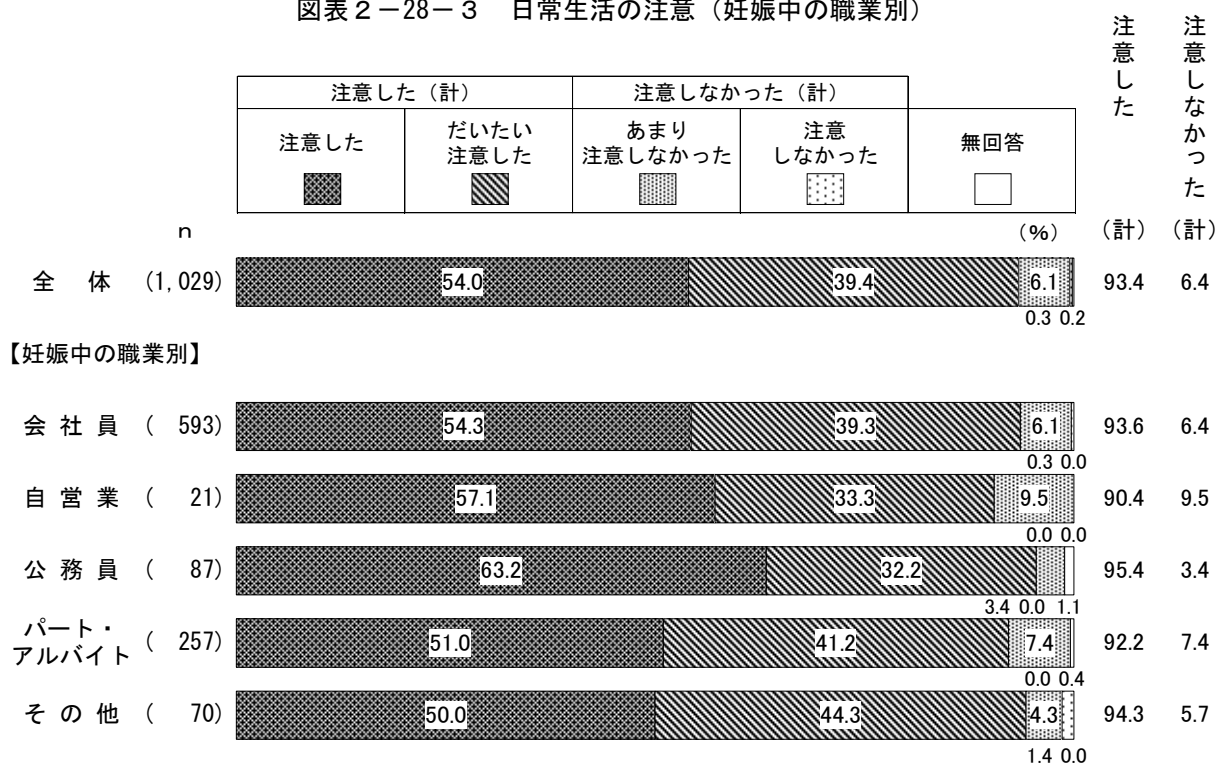
過去の調査と比較すると、「会社員」は平成24年度より6.8ポイント増加しており、平成17年度以降増加傾向にある。一方、「パート・アルバイト」は平成24年度より3.6ポイント減少しており、平成17年度以降減少傾向にある。

図表 2-28-2 妊娠中の職業（母子健康手帳の交付時期別）



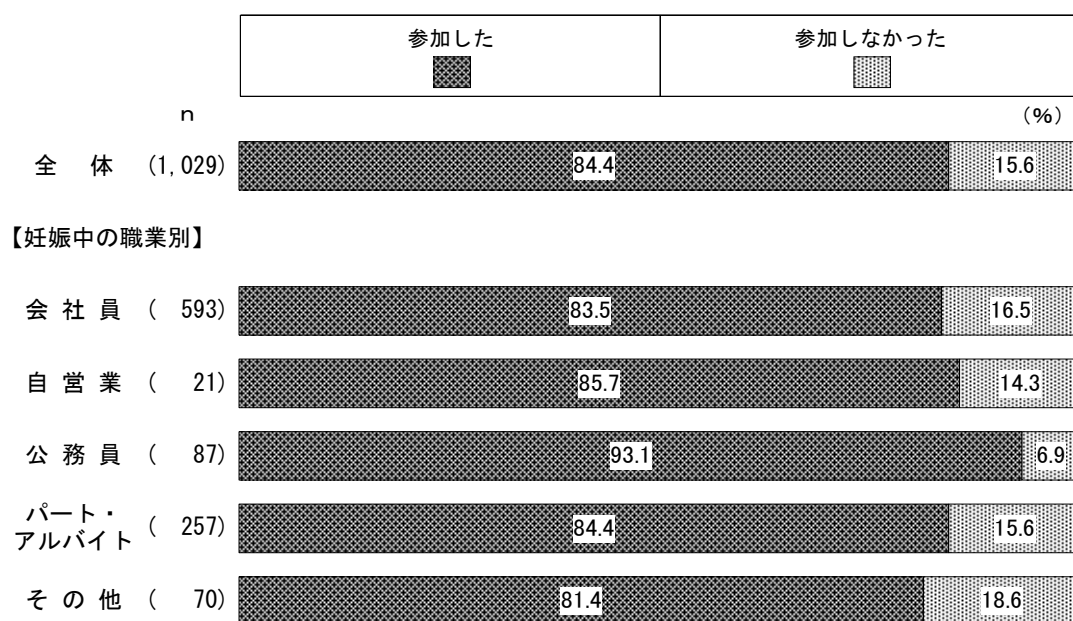
母子健康手帳の交付時期別でみると、「パート・アルバイト」は“妊娠中期～後期”（50.0%）が“妊娠初期”（24.8%）より25.2ポイント高くなっている。一方、「会社員」は“妊娠初期”（57.7%）が“妊娠中期～後期”（41.7%）より16.0ポイント高くなっている。

図表 2-28-3 日常生活の注意（妊娠中の職業別）



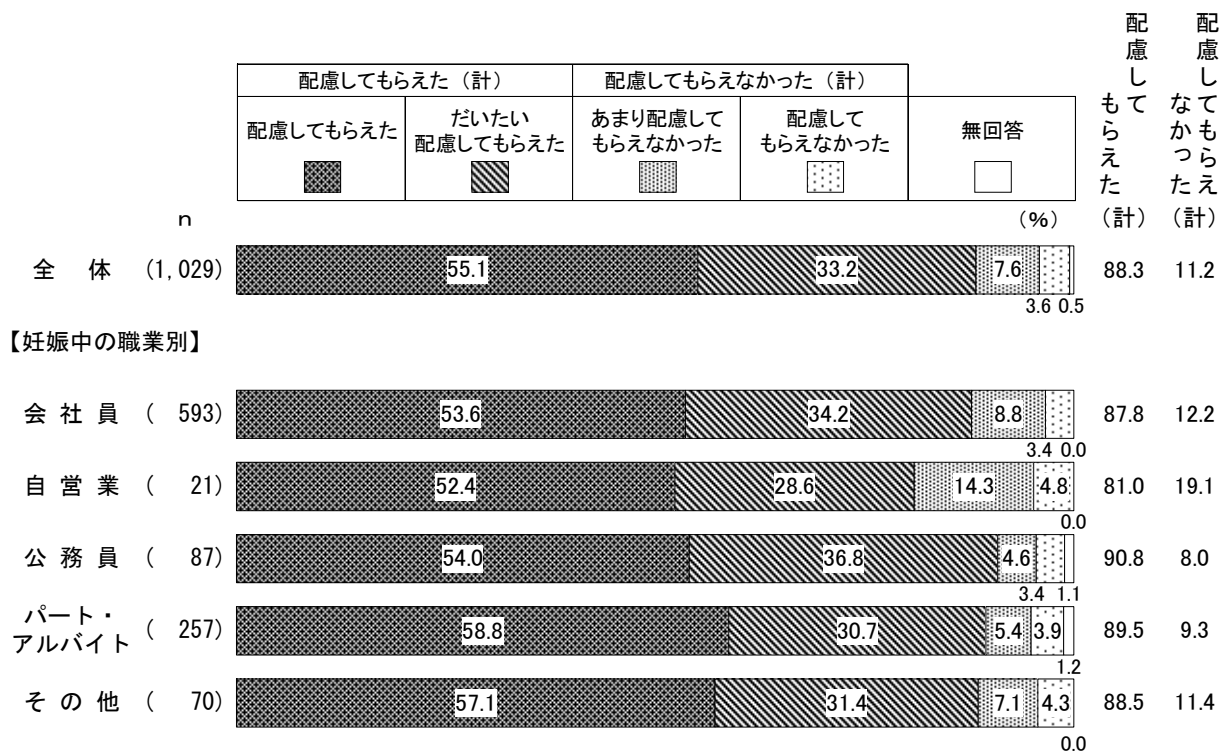
日常生活の注意を、妊娠中の職業別でみると、妊娠中、日常生活に「注意した」は“公務員”で63.2%と高くなっている。

図表 2-28-4 母親学級への参加状況（妊娠中の職業別）



母親学級への参加状況を、妊娠中の職業別でみると、母親学級に「参加した」は“公務員”で93.1%と高くなっている。

図表 2-28-5 仕事上の配慮の有無（妊娠中の職業別）



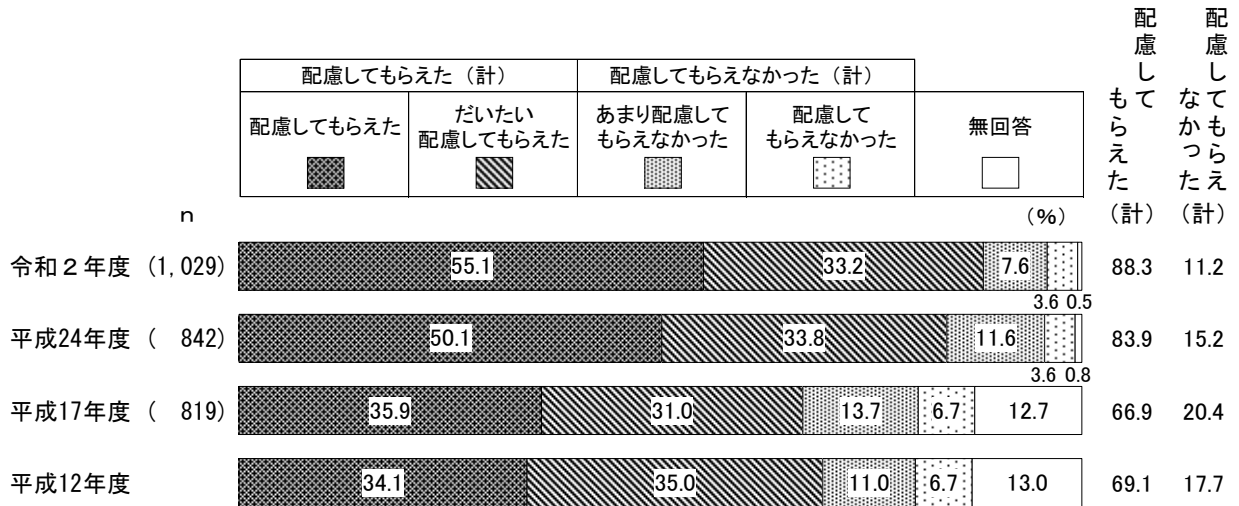
仕事上の配慮の有無を、妊娠中の職業別でみると、妊娠中、仕事上「配慮してもらえた」は“パート・アルバイト”で58.8%と高くなっている。一方、『配慮してもらえなかった（計）』は“自営業”で19.1%となっている。

(29) 仕事上の配慮の有無

問23で「はい」「途中でやめた」と答えた方へ

問23-2 妊娠ということで、仕事上配慮してもらえたと思いますか。

図表2-29-1 仕事上の配慮の有無（経年比較）

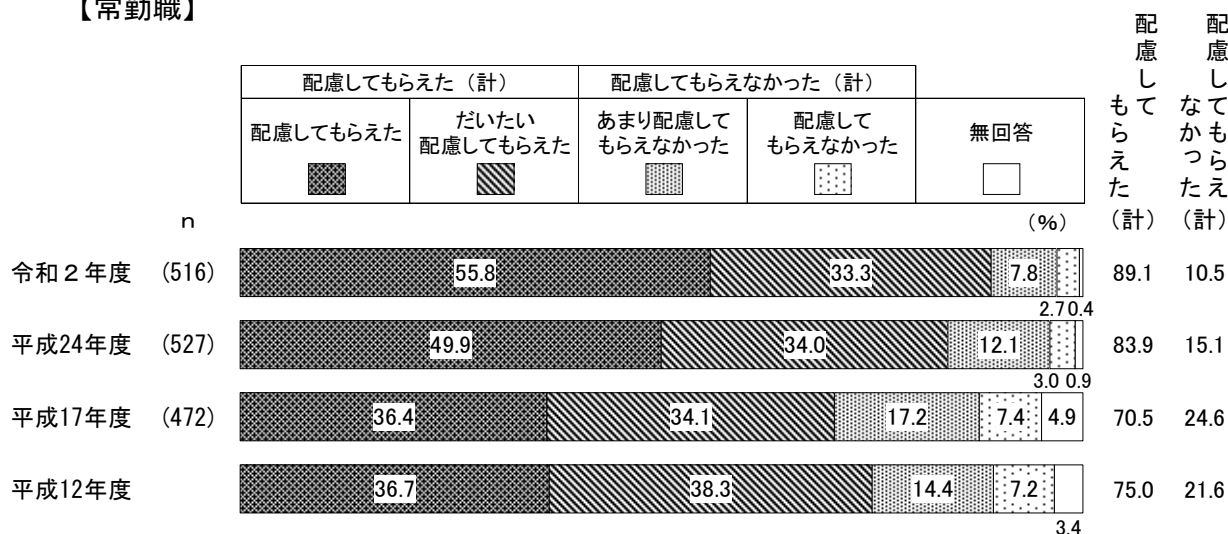


妊娠中に仕事を「していた」または「途中でやめた」と答えた人(1,029人)に、仕事上配慮してもらえたか聞いたところ、「配慮してもらえた」が55.1%で最も高く、これに「だいたい配慮してもらえた」(33.2%)を合わせた『配慮してもらえた(計)』は88.3%となっている。一方、「あまり配慮してもらえなかった」(7.6%)と「配慮してもらえなかった」(3.6%)を合わせた『配慮してもらえなかった(計)』は11.2%となっている。

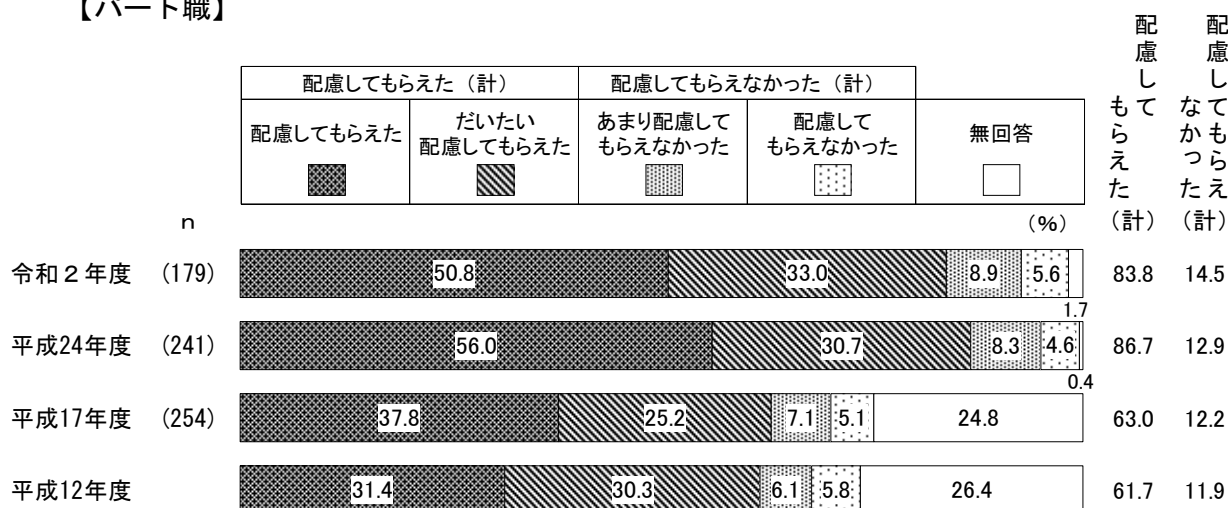
過去の調査と比較すると、『配慮してもらえた(計)』は平成24年度より4.4ポイント増加しており、平成17年度以降増加傾向にある。

図表 2-29-2 仕事上の配慮の有無（勤務形態別の経年比較）

【常勤職】



【パート職】



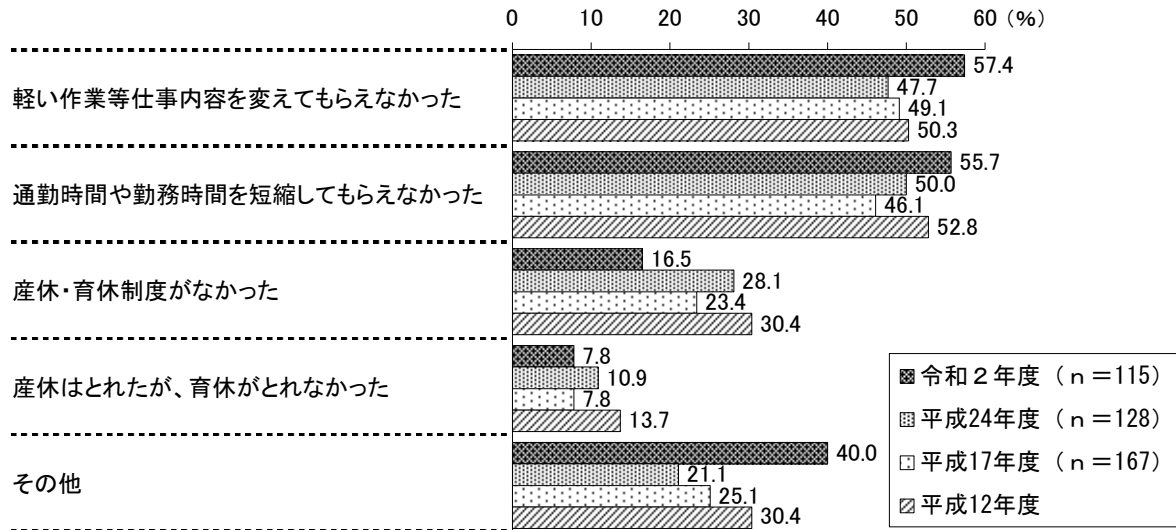
勤務形態別でみると、常勤職では『配慮してもらえた（計）』は89.1%、『配慮してもらえなかった（計）』は10.5%となっている。また、過去の調査と比較すると、『配慮してもらえた（計）』は平成24年度より5.2ポイント増加してしており、平成17年度以降増加傾向にある。

パート職では『配慮してもらえた（計）』は83.8%、『配慮してもらえなかった（計）』は14.5%となっている。また、過去の調査と比較すると、「配慮してもらえた」は平成24年度より5.2ポイント減少している。

(30) 配慮してもらえなかった点

問23-2で「あまり配慮してもらえなかった」「配慮してもらえなかった」と答えた方へ
 問23-3 どんな点が配慮してもらえませんでしたか。あてはまるものすべてに○をつけて
 ください。

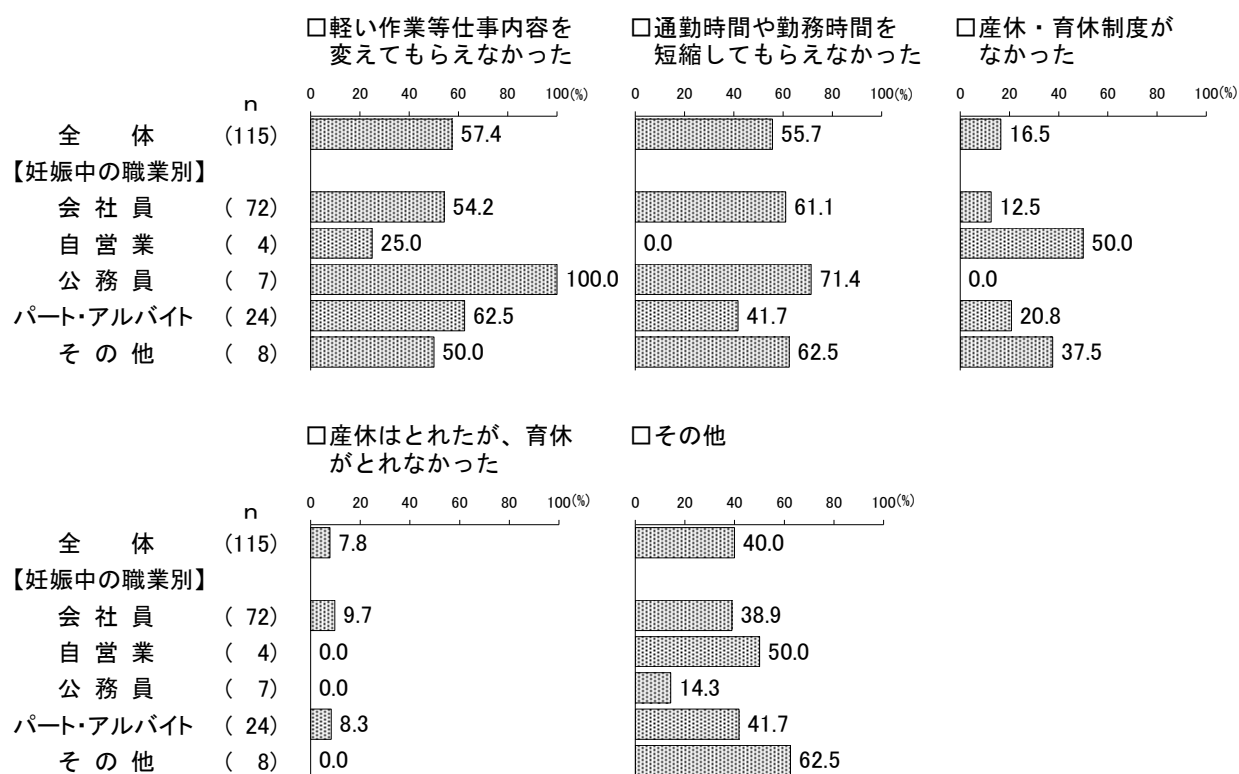
図表2-30-1 配慮してもらえなかった点（経年比較）[複数回答]



仕事上配慮を「あまり配慮してもらえなかった」または「配慮してもらえなかった」と答えた人（115人）に、配慮してもらえなかった点を聞いたところ、「軽い作業等仕事内容を変えてもらえなかった」が57.4%で最も高く、次いで「通勤時間や勤務時間を短縮してもらえなかった」（55.7%）、「産休・育休制度がなかった」（16.5%）、「産休はとれたが、育休がとれなかった」（7.8%）となっている。

過去の調査と比較すると、「軽い作業等仕事内容を変えてもらえなかった」は平成24年度より9.7ポイント、「通勤時間や勤務時間を短縮してもらえなかった」は平成24年度より5.7ポイント、それぞれ増加している。一方、「産休・育休制度がなかった」は平成24年度より11.6ポイント減少している。

図表 2-30-2 配慮してもらえなかった点（妊娠中の職業別）

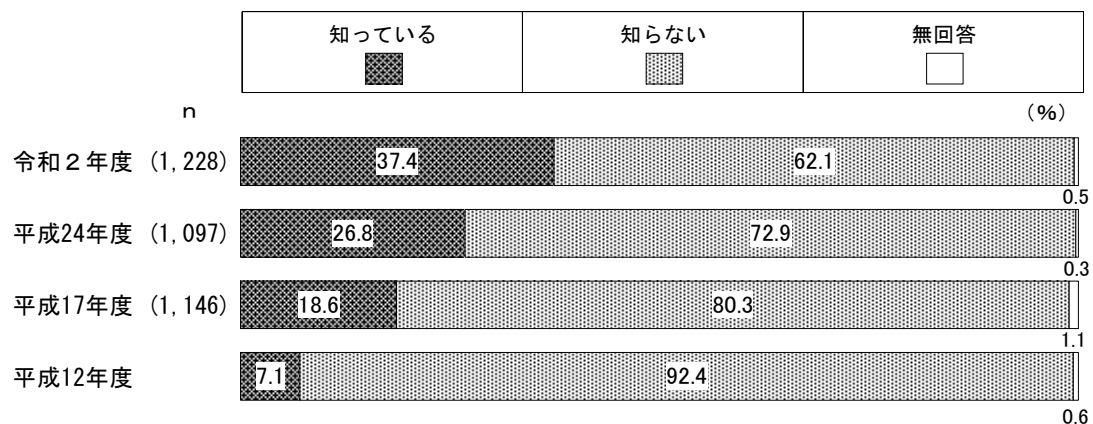


妊娠中の職業別で見ると、「軽い作業等仕事内容を変えてもらえなかった」は“パート・アルバイト”で62.5%と高くなっている。「通勤時間や勤務時間を短縮してもらえなかった」は“会社員”で61.1%と高くなっている。

(31) 母性健康管理指導事項連絡カードの認知

問24 母性健康管理指導事項連絡カードを知っていますか。

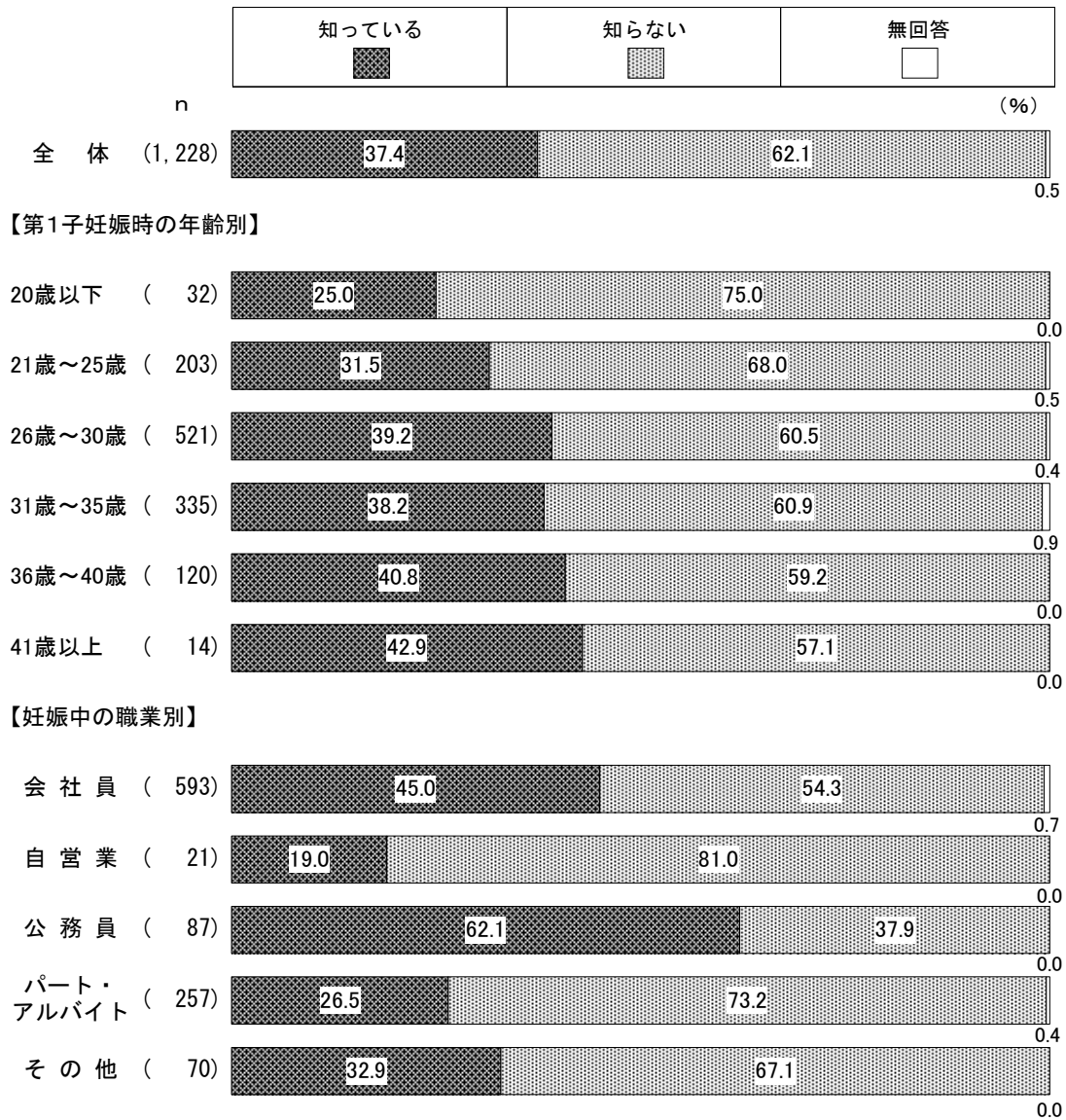
図表 2-31-1 母性健康管理指導事項連絡カードの認知（経年比較）



母性健康管理指導事項連絡カードを知っているか聞いたところ、「知っている」が37.4%、「知らない」は62.1%となっている。

過去の調査と比較すると、「知っている」は平成24年度より10.6ポイント増加しており、平成12年度以降増加傾向にある。

図表 2-31-2 母性健康管理指導事項連絡カードの認知（第1子妊娠時の年齢別、妊娠中の職業別）



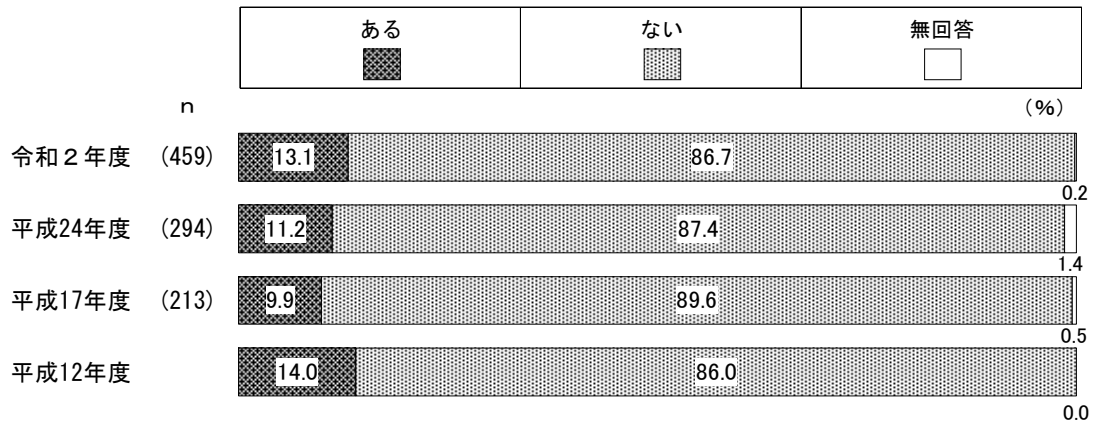
第1子妊娠時の年齢別で見ると、「知らない」はおおむね第1子妊娠時の年齢が低くなるほど割合が高く、“20歳以下”で75.0%と高くなっている。

妊娠中の職業別で見ると、「知っている」は“公務員”で62.1%、“会社員”で45.0%と高くなっている。一方、「知らない」は“自営業”で81.0%、“パート・アルバイト”で73.2%と高くなっている。

(32) 母性健康管理指導事項連絡カードの利用経験

問24で「知っている」と答えた方へ
問24-1 利用したことはありますか。

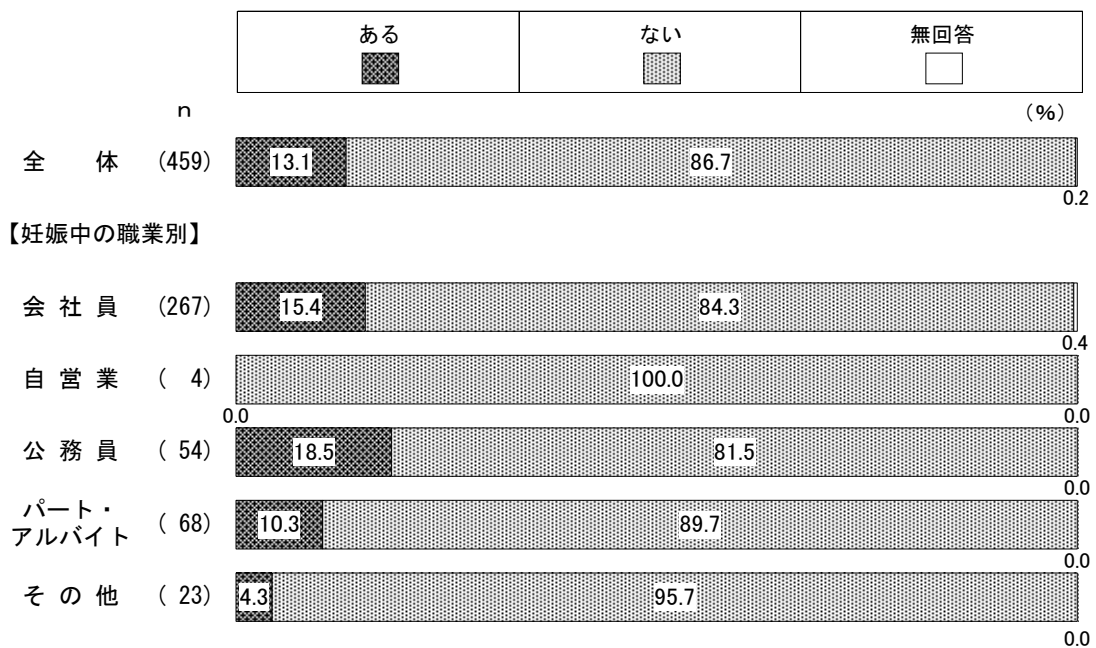
図表2-32-1 母性健康管理指導事項連絡カードの利用経験（経年比較）



母性健康管理指導事項連絡カードを「知っている」と答えた人（459人）に、利用したことはあるか聞いたところ、「ある」が13.1%、「ない」は86.7%となっている。

過去の調査と比較すると、「ある」は平成17年度以降増加傾向にある。

図表2-32-2 母性健康管理指導事項連絡カードの利用経験（妊娠中の職業別）

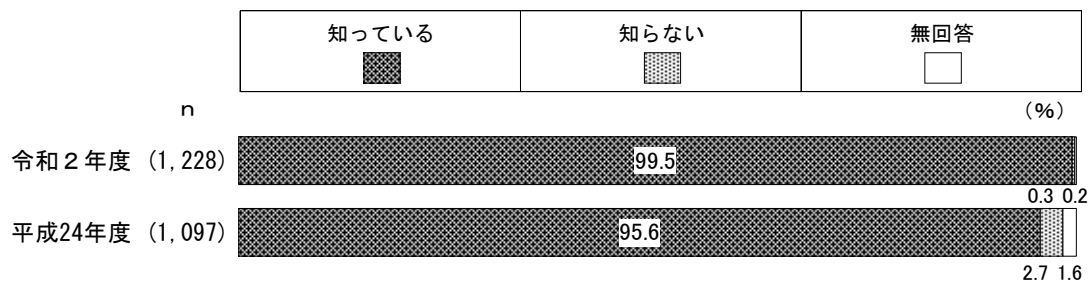


妊娠中の職業別で見ると、「ある」は“公務員”で18.5%、“会社員”で15.4%となっている。

(33) マタニティマークの認知

問25 マタニティマークを知っていますか。

図表2-33-1 マタニティマークの認知（経年比較）



マタニティマークを知っているか聞いたところ、「知っている」が99.5%、「知らない」は0.3%となっている。

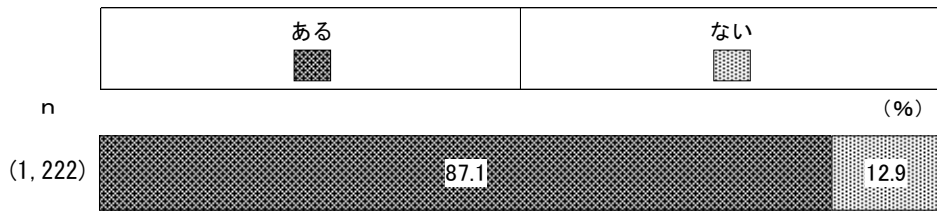
過去の調査と比較すると、「知っている」は平成24年度より3.9ポイント増加している。

(34) マタニティマークの使用経験

問25で「知っている」と答えた方へ

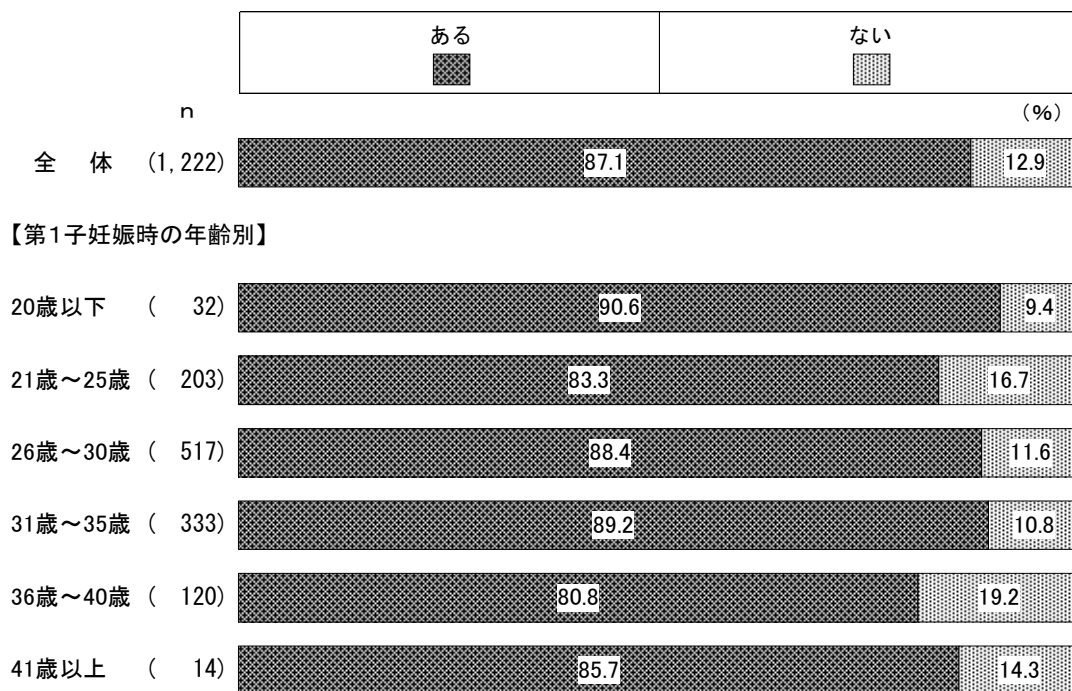
問25-1 マタニティマークを使用したことはありますか。

図表 2-34-1 マタニティマークの使用経験



マタニティマークを「知っている」と答えた人(1,222人)に、使用したことはあるか聞いたところ、「ある」が87.1%、「ない」は12.9%となっている。

図表 2-34-2 マタニティマークの使用経験 (第1子妊娠時の年齢別)



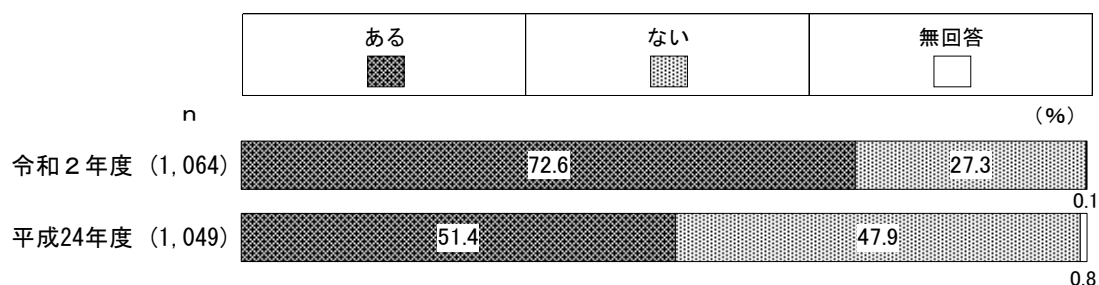
第1子妊娠時の年齢別で見ると、「ある」は“20歳以下”で90.6%と高くなっている。一方、「ない」は“36歳～40歳”で19.2%となっている。

(35) マタニティマークの効果

問25-1で「ある」と答えた方へ

問25-2 マタニティマークの効果を感じたことがありますか。

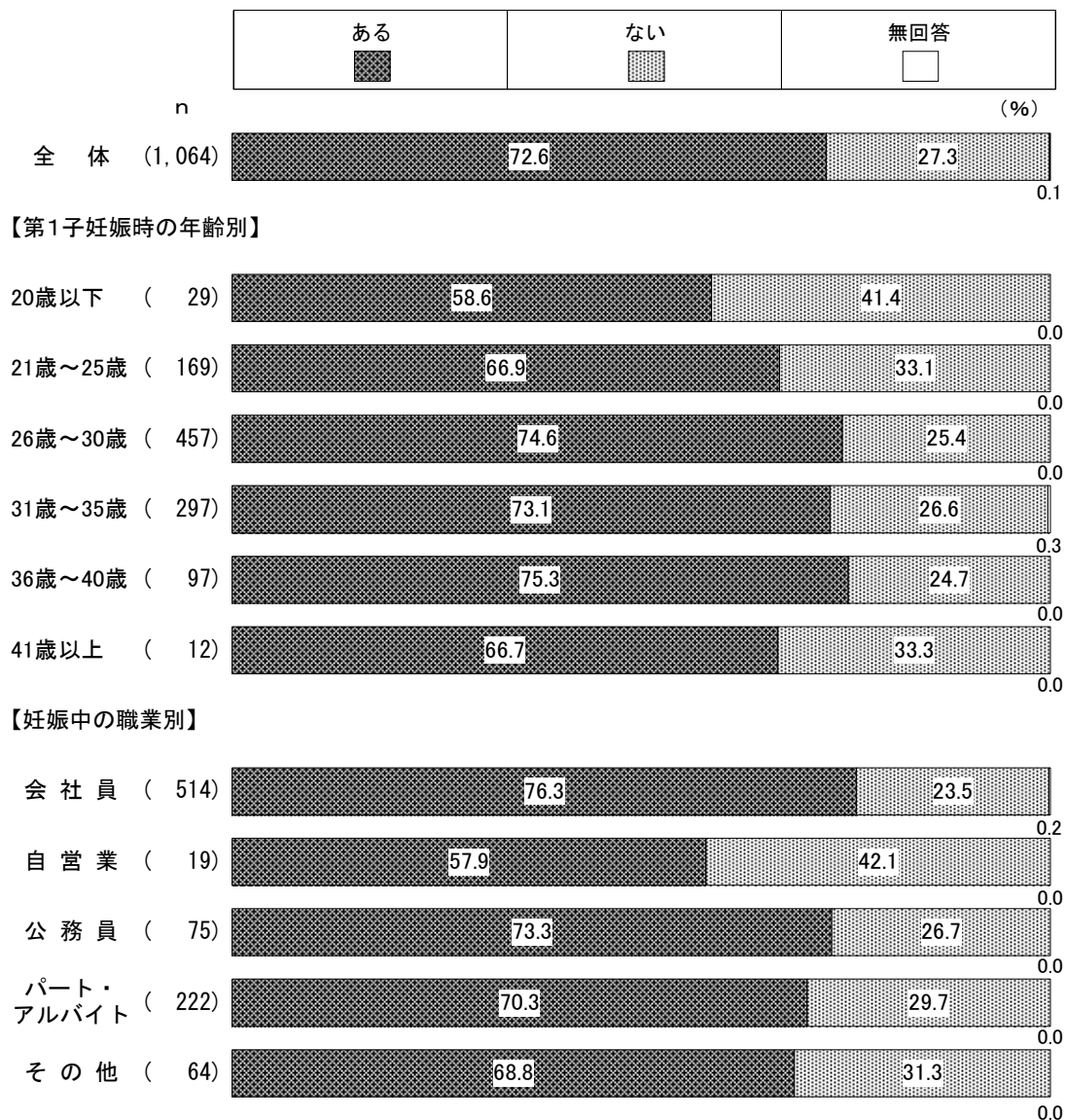
図表2-35-1 マタニティマークの効果（経年比較）



マタニティマークを「使用したことがある」と答えた人（1,064人）に、マタニティマークの効果を感じたことがあるか聞いたところ、「ある」が72.6%、「ない」は27.3%となっている。

過去の調査と比較すると、「ある」は平成24年度より21.2ポイント増加している。

図表 2-35-2 マタニティマークの効果（第1子妊娠時の年齢別、妊娠中の職業別）



第1子妊娠時の年齢別で見ると、「ある」は“26歳～30歳”で74.6%、“31歳～35歳”で73.1%、“36歳～40歳”で75.3%と高くなっている。

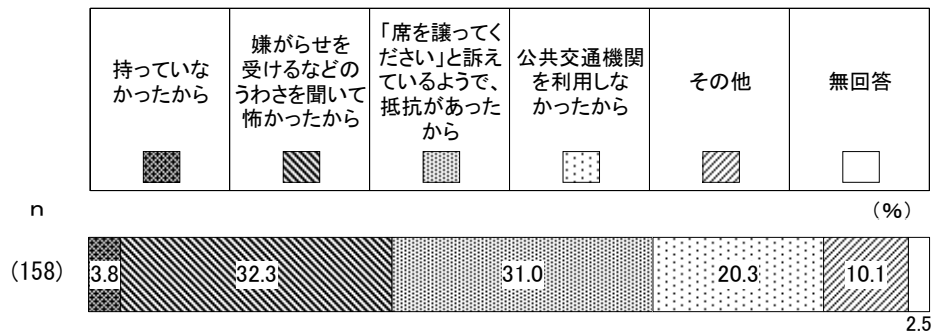
妊娠中の職業別で見ると、「ある」は“会社員”で76.3%と高くなっている。一方、「ない」は“自営業”で42.1%と高くなっている。

(36) マタニティマークを使用しなかった理由

問25-1で「ない」と答えた方へ

問25-3 マタニティマークを使用しなかったのはなぜですか。

図表 2-36-1 マタニティマークを使用しなかった理由



マタニティマークを「使用したことがない」と答えた人（158人）に、使用しなかった理由を聞いたところ、「嫌がらせを受けるなどのうわさを聞いて怖かったから」が32.3%で最も高く、次いで「『席を譲ってください』と訴えているようで、抵抗があったから」（31.0%）、「公共交通機関を利用しなかったから」（20.3%）、「持っていないから」（3.8%）となっている。